

第三十八條 民選議院及第一等ノ民選議院ヲ初メテ改選スルコトハ共和政事ノ第十年中之ヲ爲スベシ但千八百一年ト云フナリ

○佛蘭西一千八百二年

第三十五條 各區ノ選立議會ハ州郡ノ選立議會ニ委任スルヲ得可キ數議員有リト雖モ其委任スルヲ得ベキ定員ノ三分一欠員セシ上ナラザレバ欠役ノ代役ヲ任ズベカラス

第三十六條 選立議會ハ政府ヨリ爲シタル召集ノ告書ニヨリテノミ集會シ且其定メタル場所ニ集マルベシ

右議會ハ其召集シタル所ノ目的ノ所業ニノミ管スルヲ得ベシ且其召集ノ告書ニ記シタル期限ヨリ長ク會席スルヲ得ス右ノ規則ニ違

背スル議會アレハ政府之ヲ解散スルヲ得ベシ

第三十七條 諸選立議會ハ直ニ或ハ孰レノ譯ヲ托シテ潛カニ相互ニ往復ス可カラス

第三十八條 選立議會ハ解散ニナル上ハ其議員ヲ改選セザルヲ得ス

第六十六條 國議院ノ議官ノ數ハ孰レノ場合ニモ五十員ヲ過グ可カ

ラス

第六十七條 國議院ハ數課ニ分ツコナリ

第六十八條 諸卿ハ國議院ニ於テ出席ノ權及決議ノ權ヲ有スルコナ

リ

第六十九條 各州ハ已ノ民數ノ多少ニ應シ目錄書ニ從テ民選議院ニ數人ヲ差出ヌコナリ

第七十條 選立議會ヨリ共ニ選舉シタル國民ハ共ニ議員ニ選任スベシ

第七十一條 共和國ノ諸州ハ民選議院ノ選業ニ就テハ目錄書ニ從テ五部ニ分ツコナリ

第七十二條 當今ノ議員ハ右五部ノ内一部ニ入ルベシ

第七十三條 議員ハ其出ル處ノ州ノ屬スル部ノ議員ヲ改選スル年中ニ之ヲ改選スベシ但按スルニ右ノ意ハ先ツ前第三十一條ニ記シタル如ク民選議院ノ改選ハ毎年議員ノ全數ノ五分一ヲ改選スルガ故ニ前第七十一條ニ從テ全國ヲ五部ニ分チ而ノ第一部内ノ州ニ屬スル議員ハ始ノ年中之ヲ改選シ第二部内ノ州ニ屬スル議員ハ第二年中之ヲ改選スベシ第三第四第五部内ノ州ニ屬スル議員ハ次第二年

ヲ逐フテ第五年中迄ニ改選スベシ

第七十四條 尤モ共和政治第十年中選任シタル議員ハ滿五年間勤ムベシ

第七十五條 政府ハ民選議院ヲ召集スルコト其集會ノ期限ヲ延引スルコト其會議ノ時間ヲ増加スルコトヲ爲ス

第七十六條 共和政治第十三年以後第一等ノ民選議院ノ議員ヲ減シテ五十人ニ屬スベシ右五十人ノ内二十五人ハ三年目ニ改選スベシ但議員ハ五十人ニ減スルガ爲メ三年目ニ退職スベキ議員ノ代役ヲ任スベカラス○下リゴハハ數課ニ分ツベシ

○佛蘭西 一千八百○四年

第七十八條 民選議院ノ議員ハ己ノ職務ノ期限終シ上直ニ之ヲ再任スルヲ得可シ

第七十九條 民選議院ニ進達シタル法律ノ草案ハ之ヲ第一等ノ民選議院ノ三課へ差送ル

第八十條 民選議院ノ議席ハ平常ノ議席及特別ノ議席ニ分ツ

第八十一條 平常ノ議席ニハ民選議院ノ議員國議院ノ發議人及第一等ノ民選議院ノ三課ノ發議人出席ス○特別ノ議席ニハ民選議員ノ出勤ス○議長ハ平常ノ議席ト特別ノ議ニモ上席ス

第八十二條 平常ノ議席ニ於テ民選議院ハ國議院及第一等ノ民選議院ノ三課ノ發議人ノ論ヲ聞キシ上法律ノ草案ノ可否ヲ決定ス

第八十三條 民選議院ハ左ノ場合ニ於テ特別ノ議席ヲ爲ス可シ

第一 議長ヲ召集ニヨリ民選議院ノ内務ノ一ヲ議スル爲メ

第二 出席スル議員五十人ノ花押シタル願書ヲ議長へ差出シタル場合但右二箇ノ場合ニ於テモ其議席ニ來聽ヲ許スヘカラス且議事ヲ版告シ或ハ之ヲ洩言スルコトハ禁止ナリ

第三 政府ノ免許ヲ受シ上國議院ノ發議人之ヲ願フ場合

右第三ノ場合ニ於テ民選議院ノ議席ハ特別ノ議席ト雖モ必ス來聽ヲ免ス可シ○特別ノ議席ニ於テ孰レノ決定モ爲スヲ得ズ

第八十四條 特別議席ニ於テ草案ノ評議終リシ後其翌日平常ノ議席迄決定ヲ延引ス可シ

第八十五條 民選議院ニ於テ草案ノ可否ヲ定ムベキ處ノ議席ニハ國議院ノ發議人ノ論辨ノ畧旨ヲ聞入ベシ

第八十六條 孰レノ場合ニ於テモ草案ノ評議ヲ閉鎖スル爲メ定メタル日ヨリ三日ヲ過ギ其決定ヲ延引スルヲ得ズ

第八十七條 第一等ノ民選議院ノ課ハ民選議院ノ委員トナルニヨリテ民選議院ハ左ノ第十三編ノ第百十三條ニ記シタル場合ノ外ハ他ノ委員トナルヲ得ズ

第八十八條 第一等ノ民選議院ノ職務ノ期限ハ十年トス

第八十九條 第一等ノ民選議院ノ議員ノ改選ハ五年目ニ其全數ノ半ヲ改選スルヲ以テス初ノ改選ハ即千八百二年八月五日ノ元老院建國決定書ニ從テ千八百九年ノ會席ノ爲メ之ヲナス可シ

第九十條 第一等ノ民選議院ノ議長ハ下リブレノ内密會議ニテ出シタル議員ノ投票ノ過半ニヨリ薦メタル三人ノ内皇帝ヨリ之ヲ委

任スベシ

第九十一條 第一等ノ民選議院ノ議長ノ職務ノ期限ハ二年トス

第九十二條 下リブレ於テ攝政官二人有ルベシ右ハ皇帝ヨリ任スベキ者ニシテ下リブレノ内密會議ニテ出シタル投票ノ過半ニ從テ爲シタル連名書中ヨリ選舉ス但右各官員ヲ任ス可キ爲メ連名書ニ三人ヲ記各ス可シ

右列ヘストルレノ役務ハ千八百三年ノ元老院建國決定書ノ第十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四及二十五條ニ於テ民選議院ノ列ヘストルレノ爲メ定メタル役務ト同様タルベシ○毎年列ヘストル一人ヲ改選ス可シ

第九十三條 下リブレハ左ノ通り三課ニ分ツベキ者ナリ

法制課 内務課 財務課

第九十四條 右各課ニ於テ己ノ議員ノ内選ヒタル三人ノ連名書ヲ作
リ議長其内一人ヲ選ヒ課長ニ任ス可シ○課長ノ職務ノ期限ハ一年
トス

第九十五條 國議院ト第一等ノ民選議院トノ同務ノ課ハ合議スルコ
ヲ欲スル時ハ其評議ノ事件ニ依リテ帝國ノ帝國印璽大監或ハ主計
大監其會議ニ上席ス可シ

第九十六條 下リプロハノ各課ニ於テ民選議院ヨリ己レニ送リタル法
律ノ議案ヲ分課ノ會議ニ於テ別々ニ評議スベシ下リプロハノ三課各
代言人二人ヲ民選議院ヘ差出シ以テ己ノ意思及其論辨ヲ聞カシム
第九十七條 孰レノ場合ニモ法律議案ハ下リプロハノ總會議ニ評議ス

可ラス○法律議案ノ評議ノ外他ノ職務ヲ勤ムルニ第一等ノ民選議
院ハ總會議ヲ爲スヲ得ベシ其節議長其評議ヲ監察ス可シ

第九十八條 一州ノ選立議會ハ民選議院ノ議員ヲ選任スル爲メ用ユ
ベキ連名書ヲ作ント集會スル毎ニ元老院ノ議員ヲ選任スル爲メ連
名書モ改正スベシ右連名書○正セシ上ハ元ノ連名書ニ記名シタル
者ト雖モ更ニ記名セサレバ任セラル、ノ權無カル可シ

第九十九條 勳社ノ第一位第二位及第三位タル者ハ己ノ住居スル所
ノ州或ハ己ノ屬スル處ノ右勳社軍ノ諸州ノ内二州ノ選立會議ノ議
員ニ自然ナルベシ但那破崙第一世ニ於テ勳社ヲ設立セシ時ハ其大
軍ヲ數小軍ニ分チ各小軍ノ祿ニ供ス可キ爲メ幾許ノ領分ニ在ル國
有ノ不動産ヲ之ニ該當スルコナリ○勳社ノ第四位タル者ハ自然其

住居スル所ノ郡ノ選立議會ノ議員ト成ル可シ但勳社ニ屬スルニヨ
リ選立議會ノ議員ニ代ルノ權ヲ有スル者ハ大選監ヨリ右ノ爲メ請
取ベキ勳社證書ヲ差出スニ於テハ入會スルヲ得可シ

第百條 各州ノ長及各州兵ノ指令官ハ元老院ノ議員ナルニ其職ヲ勤
ムル處ノ州ノ選立議會ヨリ選任セラル可カラス

○佛蘭西一千八百十四年

第三十五條 民選議院ハ其後布告スヘキ法律ニ從テ設立スヘキ選立
議會ノ選任シタル代議者ヲ以テ編制スヘシ

第三十六條 各州ヨリ出スヲ得ヘキ代議者ノ數ト今迄差出シタル代
議者ノ數ト同一タルヘシ

第三十七條 代議者ハ五年間ノ爲メ選任スヘキ者ニシテ毎年議員ノ
五分一ヲ改選スルヲ以テ全員ヲ改選スヘシ

第三十八條 凡代議者ハ滿四十歳以上ナリ且千「フラン」一「フラン」我二十錢以上
ノ直稅ヲ納ムル者ニアラサレハ民選議院ニ出席スルヲ許サス

第三十九條 然レ如シ其代議者ノ出ル所ノ州ニ於テ四十歳以上ニシ
テ且千「フラン」一「フラン」我二十錢以上ノ直稅ヲ納ムル人ノ數五十人ヨリ少キ
時ハ千「フラン」以上ノ直稅ヲ納メスト雖レ只直稅ヲ納ムル人ノ中最
上高稅ヲ納ムル人ヲ入レ以テ其定數ヲ滿タシ之ヲ他ノ人ト同ク代
議者ニ選任スルヲ得ヘシ

第四十條 代議者ノ選任ノ所業ニ参加スル處ノ選立人ハ三百「フラン」
以上ノ直稅ヲ納メ且三十歳以上ノ者ニアラサレハ選立人ノ集會ニ

於テ決議ノ權ナカルヘシ

第四十一條 選立議會ノ議長ハ國王ヨリ委任スヘキ者ニシテ當然選立議會ノ議員タルヘシ

第四十二條 少クモ代議者ノ半數ハ州地内ニ其公然ノ住所ヲ定メ且選任セラル、ヲ得ヘキタメ法律ニ定メタル諸件ニ適當スル人ノ中ヨリ選任スヘシ

第四十三條 民選議員ノ議長ハ同院ニ於テ作りタル五人ノ名簿中ヨリ國王之ヲ選任スヘシ

第四十四條 全体民選議院ノ會席ハ衆庶ノ來聽ヲ許スヘシ然レモ議員ノ中五人以上内密ノ評議ヲ爲「ヲ願フ時ハ内密ノ會議ヲナスヘシ

第四十五條 民選議院ハ國王ヨリ已ニ送りタル法律ノ議案ヲ評議ス

ルタメ數局ニ分ル

第四十六條 法律ノ議案ニ孰レノ改正ヲ加フルモ國王ヨリ自ラ之ヲ進言シ或ハ之ヲ承諾シ且議院ノ局ニ於テ評議セシ上ニアラサレハ之ヲ爲スヘカラス

第五十一條 民選議院ノ會席中并ニ其會議前ノ六週及閉議後ノ六週間ニ議員ヲ捕フル能ハス

第五十二條 民選議院ノ會席時間中重罪ノ訴ヲ以テ孰レノ議員ヲモ原告シ之ヲ捕フ可ラス然レモ議員ハ其犯罪ヲ爲セシ場所及時刻ニ捕ヘラル、時ハ民選議院ノ承諾ヲ受ケシ上之ヲ原告スルヲ得ヘシ

第七十五條 先般民選議院ヲ解散セシ時ニ其議院ニ在勤セシ處ノ代議者ハ其代役ヲ任スル迄ハ續テ之ニ在席スヘシ

第七十六條 次後民選議院ノ議員ノ五分ノ一ヲ初テ改選スヘキコハ
遅クモ千八百十六年ニ之ヲ爲ス可シ

○佛蘭西一千八百
十五年

第七條 下院ノ議員ハ之ヲ代議者ト稱シ且代議者ハ國民ヨリ撰任サ
ル、モノナリ

第八條 此議院ノ議員ハ六百二十九人アル可シ且代議者ニ任セラ
ル、ヲ得可キ者滿廿五歳以上ナラサルヲ得ス

第九條 代議者ノ議員ノ議長ハ同院ノ開席ノ時節ニ代議者ヨリ之ヲ
撰任ス可キモノニシテ代議者ノ改撰迄ハ續テ其役ヲ勤ム可シ但代
議者ヨリ爲シタル議長ノ撰任ハ皇帝ノ承諾ヲ受ケサルヲ得ス

第十條 此下院ノ議員ハ自ラ議員ノ任撰ノ正不正ヲ検査シ且其代議
者ノ中任撰ノ疑ハシキ者有ル時ハ其任撰ノ可否ヲ獨決ス

第十一條 代議者ハ議院ノ集會中ニ旅費トシテ千七百九十一年同議
院ノ定メ得タル償金ヲ受ク可シ

第十二條 代議者ノ役ニ任セラレタル者ハ又其後ノ何度ヲ論セス更
ニ之ヲ撰任スルヲ得可シ

第十三條 凡五年目ニ當然其代議者ノ全部ヲ改撰ス可シ

○佛蘭西一千八百
三十年

第三十條 下院ハ追テ布告ス可キ法律ニ從テ設立ス可キ處ノ選立議
會ヨリ選任シタル代議者ヲ以テ編制ス可キ者ナリ

第三十一條 代議者ハ五年間限り之ヲ選任ス可シ

第三十二條 凡代議者ハ滿三十歲以上ニシテ代議者ヲ勤ムルニ法律ノ定タル件々ニ適セサレハ之ヲ下院ニ入ル可ラズ

第三十三條 然レ如シ州ニ於テ三十歲以上且法律ニ從テ代議者ナルヲ得可キニ定稅ノ高ヲ納ムル所ノ人數五十ニ至ラサル時ハ次ノ最上ノ稅高ヲ納ムル所ノ人ヲ以テ定數ヲ滿タシ之ヲ他ノ人ト同シク選任スルヲ得可シ

第三十四條 凡人ハ廿五歲以上且選立人ナルヲ得可キ法律ノ定タル件々ニ適セサレハ選立議會ノ議員トナルヲ得ス

第三十五條 選立議會ノ長ハ同議會ノ議員之ヲ任ス

第三十六條 各州代議者ノ全數ノ半以上ノ代議者ハ選任ヲ受クルヲ

得可キタメ法律ニ定タル諸件ニ適當シタル人ノ内州地内ニ其公住所ヲ定タル處ノ人ノ中ヨリ之ヲ選任ス可シ

第三十七條 下院ノ長ハ下院已ノ各會席ノ初ニ之ヲ任ス

第三十八條 下院ノ會席ニハ衆庶ノ來聽ヲ許ス可シ然レ議員ノ中五人以上内密ノ評議ヲ爲シテ願フ時ハ内密ノ會議ヲナス可シ

第三十九條 下院ハ國王ヨリ已ニ送リタル法律ノ草案ヲ評議スル爲メ數局ニ分ル

第四十三條 下院ノ會席中并ニ其集會ノ前後ハ六週間ニ議員ニ對シテ負債償濟マテノ禁獄ノ處置ヲ行フ可ラズ

○佛蘭西一千八百四十八年

第二十一條 代議者ノ總數ハ列ルゼリ^{地名}并ニ他ノ屬國ノ代議者ヲ入レテ七百五十人ト定ムルナリ

第二十三條 國內ノ各地ヨリ撰任スヘキ所ノ代議者ノ數ハ其人民ノ數ニ基キ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 凡有俸公役ハ代議者ノ職務ト兼勤スル能ハス且何レノ代議者モ其任スル所ノ期限中公法權ノ撰擧ニ因ル所ノ有俸職務ヲ任セラル、可ラス但前文ノ規則ヲ除キ格段ノ處分ヲ爲スヘキ場合ハ撰任ノ所業ニ付テノ法律之ヲ定ム可シ

第二十九條 前條ノ規則ハ憲法ヲ改正スル爲メ撰任ノ上集ム可キ議院ニ管ス可ラス

第三十條 代議者ノ撰任ハ各州ニ於テ之ヲ別ヤニ爲シ且ツ右ノ爲メ

投票ヲ用フヘシ各州ニ於テ代議者ノ任ヲ請ハントスル者ノ名簿ヲ以テ撰任スルコトノ方法ナリ撰立人ハ區ノ都府ニ撰任ノ所業ヲ爲ス可シ然^レ土地ノ都合ニヨリ區ヲ幾千部ニ分ツヲ得ヘシ右様ニ分ツヘキ區ト并ニ其分ツ方法ハ撰任所業ノ法律ニ於テ之ヲ定ム可シ

第三十一條 民選議院ハ三年間ノ爲メ任スヘキ者ニシテ三年ノ終リニ議員ノ全部ヲ改任ス可シ○民選議院ノ在勤スヘキ期限ノ終リ遅クモ四十五日前ニ一ノ法律ヲ設ケ以テ新撰任ヲ爲スヘキ所ノ期限ヲ定ム可シ○萬一前文ニ記シタル時間既ニ過クルト雖^レ未タ此法律ヲ設ケザレバ民選議院ノ在勤ノ時間終ラサル三十日目ニ至リ撰立人ト當然集會スヘシ○猶民選議院ノ在勤時間ノ終ルヘキ所ノ日

限ノ翌日ニ至リ新ナル民選議院ヲ召會スルコトハ當然ナリ

第三十二條 全体民選議院ハ平常集會スヘシト雖モ自ラ日限ヲ定メ其日限ニ至ル迄集會ス又止メントスル時ハ之ヲ爲スヲ得ヘシ其集會セサルノ間ニ委員ヲ設置スヘシ右委員ハ民選議院ノ過半ニヨリ内密ノ投票ヲ用ヒ任シタル代議者二十五人并議長坐席ノ員ヲ以テ編制セル者ニシテ議院集會セサル時間ニ急用ノ場合ニ至リ之ヲ直ニ召會スルコトノ權ヲ有ス可シ○共和政治統領モ民選議院ヲ召會スルノ權ヲ有スルナリ○民選議院ハ其集會ノ場所ヲ定メ己ノ保護ノ爲メ要スル處ノ警衛ノ兵數ヲ決シ且此兵ヲ用ユルヲ得ヘシ

第三十三條 代議者ハ幾度ヲ限ラス之ヲ更任スルヲ得ヘシ

第三十四條 凡民選議院ノ議員ハ其之ヲ撰任シタル所ノ州ノ各代人

ニ非ラスシテ佛蘭西全國ノ各代人ナリ

第三十五條 凡代議者ハ其己ヲ任シタル所ノ撰立人ヨリ己ノ勤ニ付テ己ノ必ス行フヘキ命令ヲ受ク可ラス

第三十六條 代議者ハ冒瀆スヘカラサル者ナリ且其民選議院中ニ陳述シタル存意ニ付テハ何時ニテモ之ヲ探索及原告裁判ス可ラス

第三十七條 代議者重罪ヲ犯シタルト雖モ現行犯罪ニ非レハ民選議院之ヲ訴フルコトヲ許シタル上ノミ之ヲ取押ヘ原告スルヲ得ヘシ現行犯罪ノ場合ニヨリ代議者ヲ取押ヘタル時ハ直ニ其事ニ付テ民選議院ノ決定ヲ伺フヘシ民選議院ハ之ヲ續テ訴フヘキコトヲ許シ或ハ議ス可シ但既ニ現行犯罪ヲ爲シタル人拘留シタル間ニ代議者ニ撰任スル時モ此規則ヲ用フ可シ

第三十八條 代議者各償金ヲ受ルコナリ何レノ代議者モ之ヲ受ルコ
ヲ辭スルヲ得ス

第三十九條 民選議院ノ會席ニ來聽ヲ許ス可シ然レ同院ノ規則書ニ
定メタル代議者ノ幾人ヨリ内密會議ニ願ヲ出スニ於テハ内密會議
ヲ爲ヲ得ヘシ代議者各發論ノ權ヲ有スル者トス猶其權ヲ施行スル
法式ハ同院ノ規則書ニ定メタル式ナリ

第四十條 議院ノ過半出席セサレハ其決議シタル法律ハ効ナカルベ
シ

第四十一條 急速ノ場合ノ外ハ何レノ法律議案ヲ決議スルヲ得ベキ
ニ五日以上ノ時間ヲ隔テタル三度ノ商議ヲ爲サ、ルヲ得ス
第四十二條 若シ急速ノ場合ノ方法ヲ用ユヘキコトヲ得ヘキ勸告ヲ出

シタル時ハ其表紙ニ必ス其所以ヲ述タル書面ヲ出サ、ルヲ得ス○
其節民選議院ハ其勸告書ヲ查究スヘキコトヲ思フ時ハ之ヲ己ノ局ヘ
送り且其急速ノ勸告書ニ付テノ届書己レニ出スヘキ日限ヲ定ムヘ
シ尙此届書ヲ受取リシ日ヨリ如シ民選議院ハ之ヲ可トシテ急速ナ
ル場合ノ法式ヲ用ユ可キコトヲ認ルニ於テハ此旨ヲ告ケ且其急速ナ
ル議案ヲ商議スヘキ日限ヲ定ム可シ反テ此届書ヲ主トシテ急速ノ
場合ノ法式ヲ用フルニ及ハスト定ムルニ於テハ其議案ニ付テ平常
ノ商議ノ法式ヲ用フ可キナリ

○佛蘭西一千八百五十年

○千八百五十一年十二月二十日及二十一日ノ投票ニ因リ佛蘭西
八民ノ路易拿破崙保那巴ニ授ケ、威權ヲ以テ制定シタル憲法

第三十四條 議院ノ員ノ選舉ハ人口ノ多寡ヲ以テ基礎トス

第三十五條 選舉ヲ爲ス者三萬五千人毎ニ代理者一員ヲ議院ニ出ス可シ〔千八百十七年五月廿七日換フ〕

第三十六條 國民ノ代理者ハ數名ヲ合シ選舉ヲ爲スコナク全國人民ノ投票ヲ以テ一名毎ニ之ヲ選舉ス可シ

第三十七條 〔千八百五十二年十二月廿五日廢ス〕議院ノ員ハ官俸ヲ受クルコナシ

第三十八條 議院ノ員ハ六年間其職ニ任ス

第三十九條 議院ノ員ハ法律ノ議案及ヒ租稅ノ商議ヲ爲シ可否スル者ノ多寡ニ從テ之ヲ決定ス

第四十條 法律ノ議案ヲ取調フル任ヲ受ケタル委員ノ採用セシ法律

議案ノ更改書ハ之ヲ討論セズシテ議長ヨリ參議官ニ送ル可シ若シ

參議官其改正ヲ採用セサル時ハ之ヲ議院ノ商議ニ附スルコトヲ得ス

第四十一條 議院ノ通帝ノ集會ハ之ヲ三月間トシ其會議ハ衆庶ノ來廳ヲ許サスト雖モ若シ議院ノ員中五名ヨリ求ムル時ハ議院ノ總員ヲ以テ隱密ノ議會ト爲ス可シ

第四十二條 新聞紙ニ因リ又ハ其他衆庶ニ告知ス可キ方法ニ因リ議

院會議ノ諸件ノ摘撮書ヲ公ニ爲スニハ各會議ノ終リニ於テ議長ノ管照ヲ以テ記シタル所ノ論議ノ調書ヲ用フ可シ

第四十三條 議長及ヒ副長ハ共和政治ノ大統領議員中ヨリ一年間之

ヲ選舉ス○議長ノ官俸ハ命令書ヲ以テ之ヲ定ム

第四十四條 宰相ハ議員トナル可カラズ

○佛蘭西 一千八百五十二年

第四十六條 民選議院ハ召集ノ布告ニ定メタル日限ニ集會ス渾テ本院ノ會議ニ於テハ格別ノ布告ニ由リ任シタル參議院ノ議官數人政府ノ名代ヲ勤ム

第四十七條 始ノ會議ヲ開ク時ニ民選議院ノ議長出席シ議員ノ中最年少ノ者四人ノ補佐ヲ得テ圖取ノ法ヲ用ヒ衆員ヲ七局ニ分ツ可シ但此四人ハ集會ノ時間中書記役ノ職務ヲ勤ム○此ノ如ク編成シタル七局ハ集會中ノ毎月圖取ノ方法ヲ用ヒ其員ヲ改撰ス○各局ハ其局長一名及書記役數名ヲ任ス可シ

第四十八條 各局ハ直ニ本院ノ議長ヨリ已レニ領タレタル代議者選

任ノ調書ノ檢査ニ取掛ル可シ又其員ノ中一名或ハ數名ヲ任シ之ヲシテ總會議ニ於テ其檢査ノ報告書ヲ聞カシム可シ

第四十九條 本院ハ其局ノ報告書ニ基キ選任ノ當否ヲ決議ス選任ノ當ト定ラレタル者ハ直ニ建國法第十四條及千八百五十二年十二月二十五日附元老院決定書ノ第十六條ヲ定メタル誓ヲ爲ス可シ然ル後議長本人ハ代議者ナリト告ク可シ但選任ノ當ナリト定ラレタル者ノ中出席セザル者アレハ次ノ會議ニ於テ誓詞ノ式ヲ行フ可シ○凡其撰任ヲ當ト定タル日ヨリ十五日内ニ誓詞ヲナサ、ル代議者ハ免職シタル者ト看做ス可シ出席セザル者ハ書面ヲ以テ誓詞ヲ爲スヲ得可シト雖此場合ニ於テハ其書面ヲ前文ノ期限内ニ議長ニ出ス可シ

第五十條 代議者ノ選任ノ検査終リシ後議長ハ民選議院ヲ編成シタル旨ヲ皇帝ニ告ク可シ但選任ヲ延期シ或ハ更ニ決議ス可キ所ノ代議者アリト雖モ其決議ヲ俟ツニ及ハス

第五十一條 皇帝ヨリ民選議院ニ附スル所ノ法律ノ議案ハ特任シタル參議院ノ議官之ヲ持シテ本院ニ之ヲ讀聞カシム或ハ皇帝ノ命令ニ從ヒ國政卿ヨリ民選議院ニ之ヲ達シ總會議ニ於テ之ヲ讀聞カシムルナリ○此議案ヲ印刷シテ議員ニ頒チ院内ノ諸局ノ議事ノ日順ニ書載ス諸局ハ之ヲ評議シ且内密ノ投票ノ過半ヲ以テ七名ノ委員ヲ選ヒ之ヲシテ總會議ニ於テ其評議ノ報告書ヲ讀聞カシム○法律ノ議案ノ性質ニ由リ民選議院ハ其院内ノ局ノ委員七名ノ代ニ十四名ヲ以テ編成ス可キヲ定ムルヲ得可シ

第五十二條 凡法律ノ議案ニ付テ議員一名或ハ數名ヨリ發シタル修正意見書ハ之ヲ議長ニ呈シ議長之ヲ委員ニ達ス可シ但法律ノ議案ノ報告書ヲ總會議ニ於テ讀聞カシタル後出シタル何レノ修正意見書ト雖モ之ヲ受ク可カラス

第五十三條 修正意見ヲ發シタル者ハ委員ノ會議ニテ其論ヲ聞カシムルノ權アリ

第五十四條 若委員ノ修正ノ意見ヲ可ト定タル時ハ其意見書ヲ議長ニ呈シ之ヲ參議院ニ達ス可シ尙參議院ヨリ之ニ付テ存意ヲ通知スル迄ハ委員其報告ヲ延期ス可シ又委員ハ其意見書ヲ可ト爲シタル原由ヲ參議院ニ聞カシムル爲メ己レノ員中ノ三名ヲ名代トシテ出張セシムルヲ得可シ

第五十五條 若シ參議院ヨリ民選議院ノ議長ヲ中人ニシテ委員ニ知
 ラシメタル存意ニ由リテ其修正ノ意見書ヲ可ト爲スカ或ハ參議院
 ヨリ其意見書ノ文ヲ改メ委員ニ於テ其改メタル文ヲ可トシタル時
 ハ總會議ニ於テ評議ス可キ法律ノ議案ヲ其新ナル文ノ如ク修正ス
 可シ○若シ參議院ノ存意ニ由リテ修正ノ意見ヲ否トナスカ或ハ參
 議院ニ於テ其文ヲ改メタル上委員ニ於テ其改正ノ文ヲ可トセザル
 時修正意見書ハ効ナキ者トス

第五十六條 委員ヨリ法律ノ議案ヲ評議シタル後ニ爲シタル所ノ報
 告書ハ總會議ニ於テ之ヲ讀聞カシム可シ但此報告書ヲ總會議ノ時
 ヨリ二十四時前之ヲ印刷シ議員ニ頒ツ可シ

第五十七條 議事ノ日順ニ定メタル日限ニ至リ議事ヲ開キ始メ法律

議案ノ大意ハ後ニ各條目ニ付テ議ス可シ畢竟條目ヲ議ス可キヤ否
 ノ事ニ付テ本院ノ存意ヲ問フニ及ハスシテ議長各條目ニ付テ順次
 ニ決議ヲ爲サシムルナリ○但其決議ハ起立ノ方法ヲ用ヒ之ヲ爲ス
 可シ若シ本院ノ議長事務局員ヨリ可否ノ疑アルト申立ツル時ハ投
 票ノ式ヲ用フ可シ

第五十八條 議案ノ各條目ニ付テ決議ヲ爲シタル後議案ノ大意ノ決
 議ヲナス可シ○其決議ハ公ノ投票ノ過半ニ由リテ之ヲ爲ス可シ書
 記役投票ヲ改メ議長決議ヲ告ク○代議者ノ過半出席セザレハ本院
 ノ決議効アル可カラス○若シ投票ヲ爲ス者ノ數代議者ノ過半ニ當
 ラザル時ハ議長其決議効ナカル可キヲ告ケ更ニ之ヲ爲ス可キヲ
 ヲ命ス○邑又州ノ便益ニ限ル所ノ法律ノ議按ハ若シ之ニ付テ異論

ヲ述フル議員アラザレハ起立ノ方法ヲ用ヒ之ヲ決議ス可シ然レ議
員十名以上投票ノ式ヲ用フ可キヲ請求スル時ハ格別トス

第五十九條 凡民選議院ノ爲シタル決議ハ可否ヲ問ハス其決議ノ原
由ヲ記ス可カラザル者ニシテ左ノ二ノ文式ノ中ノ一ヲ用ヒテ之ヲ
記ス可シ○(民選議院許可セリ)○(民選議院許可セザリシ)

第六十條 民選議院ヨリ許可セシ所ノ法律議按ノ正本ハ議長及書記
役之ニ調印ヲ爲シタル上本院ノ舊記載ニ納ム可シ○尙議長及書記
役共ニ調印シタル所ノ副本一通ヲ皇帝ニ捧ク可シ

第六十一條 皇帝ヨリ民選議院ニ下ス所ノ告達及告諭ハ特任ヲ受ケ
タル諸卿或ハ參議院ノ議官之ヲ持參シ會議ニ於テ讀聞カシム可シ
○此告達及告諭ニ付テハ何レノ評議ト何レノ決議モ爲ス能ハス但

其告達及告諭ニ於テ本院ノ決議ス可キ所ノ建言アル時ハ格別トス

第六十二條 本院ノ會ヲ延期シ其會議ノ時間ヲ延ハシ或ハ本院ヲ解
散ス可キ爲ノ皇帝ノ告諭ハ公ノ會議ニテ之ヲ讀ム可キトス議員
ハ何レノ所行モ停止シ直ニ解散ス可シ

第六十三條 民選議院ノ議長ハ自ラ會議ヲ開キ又會議ヲ閉ルヲ告
ク各會議ノ終リニ衆員ノ存意ヲ問ヒシ後次キノ會議ヲ開ク可キ刻
限及議事ノ日順ヲ報ス但議事ノ日順ノ表ヲ議事堂ニ貼附ス可シ○
此議事ノ日順ハ直ニ之ヲ國政卿ニ達ス可シ又一切其他ノ緊要ナル
報知モ議長適應ノ時ニ國政卿ニ傳達セシム可キヲ注意セザルヲ
得ス

第六十四條 何レノ議員ト雖モ發言ノ允許ヲ請ヒ議長ヨリ之ヲ受ケ

タル上ニ非レハ發言ヲ爲ス可カラス又議員ハ其場ニ在テノミ發言
ヲ爲スヲ得可シ

第六十五條 然レ政府ノ名義ヲ以テ法律ノ議案ヲ主張ス可キヲ任
セラレタル參議院ノ議官ハ發言ノ允許ヲ請ヒシ議員ノ名簿ニ己ノ
姓名ヲ記入スルニ及ハスシテ發言ヲ願フ時ニ之ヲ許ス可シ

第六十六條 凡發言者ノ言ヲ中絶セシニ由リ犯則ノ戒ヲ受ケタル議
員ハ發言ノ允許ヲ受ク可カラス○若シ發言者議事ノ本按ニ離レ他
ノ事件ノ論ニ干涉スル時ハ議長之ヲシテ本按ノ論ニ返ラシム可シ
但本人其議長ノ命ニ付テ發言ヲ爲スノ允許ヲ願フニ於テハ議長
之ヲ許スヲ得可シ○凡同一ノ發言中既ニ二度議事ノ本按ニ返ル可
キ命ヲ受ケタリト雖レ又本按ニ離レ他ノ事件ヲ論スル發言者アル

時ハ議長ハ此議按ニ付テ會議ノ殘期中之ニ發言スルヲ禁ス可キ
ヤ否ノ事ニ付テ衆員ノ存意ヲ問フ可シ但議院ハ別段評議ヲ爲サス
シテ起立ノ方法ヲ用ヒ之ヲ定ム可シ

第六十七條 規則ニ背ク發言者ニ對シテ犯則ノ戒ヲ爲スノ權ハ議長
ノミニ屬ス○凡犯則ノ戒ヲ受ケ之ニ服シタル上誤ナキヲ證センカ
爲メ發言ノ允許ヲ願フ時ハ議長之ニノミ發言ヲ許スヘシ○同一ノ
發言ノ中二度犯則ノ戒ヲ受ケタル發言者アレハ其誤ナキヲ證ス
ル爲メ發言ヲ願フニ於テ議長之ニ發言ヲ許シタル後同一ノ議按ニ
付テ其會議ノ殘期中之ニ發言ヲ禁ス可キヤ否ノ事ニ付テ衆員ノ存
意ヲ問フ可シ但議員別段評議ヲ爲サスシテ起立ノ方法ヲ用ヒ之ヲ
定ム可シ

第六十九條 凡議員一名規則ヲ犯ス時ハ議長其名ヲ呼ヒ之ニ對シテ
 犯則ノ戒ヲ爲ス可シ若シ本人之ニ服セスシテ繼テ規則ヲ犯ス時ハ
 議長其犯則ノ戒ヲ議事ノ調書ニ記ス可キヲ命ス可シ尙又本人之
 ニ服セザレハ議院議長ノ建言ニ從ヒ五日ヲ過ク可カラザル時間本
 人ヲ議事堂ニ入ルヲ禁スルヲ別段評議ヲ爲サスシテ定ム可シ但
 場合ニ由リテ此決定書ヲ其代議者ヲ任シタル州ノ地ニ於テ公布ス
 可キヲモ亦命スルヲ得可シ

第七十條 會議ノ景况擾亂ニ赴キ議長之ヲ鎮定スル能ハザル時ハ議
 長已ノ帽子ヲ冠ス若シ擾亂尙止マザル時ハ議長會議ヲ停止セン
 ヲ告ク尙擾亂鎮定セサレハ一時間其會議ヲ停止ス可シ但其時間ニ
 代議者ハ其各屬スル所ノ局ニ集マル可シ○其時間ヲ經タル上會議

ヲ再行ス可シ然レ擾亂更ニ生スルニ於テハ議長會議ヲ止メテ之ヲ
 翌日ニ延期ス可シ

第七十一條 議事ノ日順ニ從フ可キヲ論或ハ日順ニ付テノ前後ノ
 論或ハ本院ノ規則書ニ背クヲニ付テノ論ハ本按ニ先チテ議ス可キ
 者ニシテ之ヲ發スル者アル時ハ本按ノ議事ヲ當然停止ス可シ○日
 順ヲ定ムルヲニ付テノ決議ニハ其原由ヲ記ス可カラス○凡何レノ
 事件ニ付クト雖_レ之ヲ議ス可カラサルトノ意見ヲ發シタル時ハ之
 ヲ本按ニ先チ投票ニ附ス可シ但皇帝ヨリ出タル意見書ニ付テ之ヲ
 發スルヲ得ス

第七十二條 憲法第四十一條ニ從ヒナスヲ得ヘキ内密會議ノ願ハ其
 之ヲナシタル者ヨリ調印ノ上議長ニ之ヲ呈スヘシ議長之ヲ讀ミ内

密會議ヲナスヘキコトヲ告ク且其願ノ旨ヲ議事ノ記録ニ記セシムヘシ

第七十三條 千八百五十二年二月二日附法律ノ第十一條ニ從ヒ要ス

ル所ノ免許願アル時ハ但現行犯罪アル代議者ヲ民選議院ノ集會時

許ヲ要スト記シタ議長其願ノ旨ノミヲ告ケ然ル後其願書ヲ院內諸

局ニ送ル可シ院內諸局ニ於テ委員ヲ任シ此委員ハ其代議者ヲ訴フ

ルヲ許ス可キヤ否ヲ調査ス可シ

第七十四條 議事記録ノ作文及憲法ノ第四十二條ニ由リ爲ス可キ所

ノ摘撮書ノ作り方ハ民選議院ノ議長ヨリ任シ且免職スルヲ得可キ

書記生ニ之ヲ托ス可シ議長自ラ其事務ヲ總理ス可シ

第七十五條 千八百五十二年十二月二十五日附元老院決定書第十三

條ニ從ヒ各會議ノ記録ニハ只民選議院ノ所行ト其決議ノ結局ノミ

ヲ記スナリ議長之ニ調印シ次ノ會議ニ於テ一名ノ書記官之ヲ朗讀ス

第七十六條 憲法第四十二條ニ從ヒ爲ス可キ摘撮書ニハ其會議ニテ

發言ヲ爲シタル者ノ姓名并ニ其發言ノ結句ヲ記ス可シ

第七十七條 議院ノ許可ヲ受ケタル上會議ノ記録并ニ前文ニ記シタ

ル決定書ノ第十三條ニ從ヒ編成シタル委員ノ許可ヲ受ケタル上會

議ノ摘撮書ハ議長ヨリ調印スル所ノ二箇ノ簿冊ニ之ヲ登記ス可シ

第七十八條 此摘撮書ヲ新聞紙ニ出スコノ方法ハ議長格別ノ決定ヲ

以テ之ヲ定ム可シ

第七十九條 凡何レノ議員ト雖モ前文ノ元老院決定書第十三條ニ從

ヒ設ケタル委員ノ許可ヲ受ケタル上其發言シタル演說書ヲ私費ニ

テ印刷スルヲ得可シ然モ此委員ノ許可ハ民選議院ヨリ之ヲ確定セ

サルヲ得ス但前文ノ規則ニ背キテ演說書ヲ印刷シ販賣スルニ於テ
ハ印刷師ヲ五百フラン^{我ニ}ヨリ五千フラン^{十錢}迄ノ罰金ヲ以テ罰
シ販賣者ヲ五フラン^迄ヨヨ五百フラン^迄迄ノ罰金ヲ以テ罰ス可シ
第八十條 フルボレノ宮殿及議長ノ館舍并ニ總テ之ニ屬スル所ノ家
屋及家什ハ是迄ノ如ク民選議院ノ用ニ供ス可キ者トス

第八十一條 民選議院ノ議長ハ議院ノ諸務ヲ總理スルナリ議長ハ其
院内ニ住居ス

第八十二條 議長ハ格別ノ決定ヲ以テ院内ノ諸務ノ編成及民選議院
ノ費用ニ供スヘキ定額金ノ用方ヲ定ム

第八十三條 議長ハ皇帝ヨリ一年ノ爲メ任スル所ノ會計掛二名ノ輔
佐ヲ受ク○會計掛ハ議長ノ決定ニ從ヒ又大藏卿ヨリ爲シタル所ノ

定額金^{アレガシヨシトクシ}ノ傳票ニ基キ總テ人身物品トニ管スル費用拂方ノ手續ヲ爲
スナリ議長ハ己ノ管務ノ權ノ一部ヲ之ニ托スルヲ得可シ會計掛ハ
民選議院ノ館ニ住居ス且給料ヲ受クル者ナリ

第八十四條 民選議院ノ議長ハ院内ノ諸吏ヲ任シ且場合ニ由リテ之
ヲ免職ス

第八十五條 毎年集會ノ節院内ノ諸局ヨリ任ス可キ所ノ七名ノ委員
ハ民選議院出納方ノ勘定書ヲ正算シ之ヲ調査シタル上其調査ノ結
局書ヲ議長ニ呈ス議長其調査書ノ結局ニ隨テ需ムル所ニ隨ヒ之ヲ
施行ス

第八十六條 民選議院ノ議長ハ會議ノ取締及館内ノ取締ヲ任セラル
者ナリ

第八十七條 凡外人ハ何レノ事ニモ托言シテ議員ノ集會スル場所ニ
妄リニ入可カラス

第八十八條 凡傍聽人ノ中可否ノ合圖ヲ爲シ或ハ取締ヲ亂ス者アレ
ハ使吏直ニ之ヲ追出シ場合ニ由リテ之ヲ掌管ノ官吏ニ訴フ可シ

第八十九條 何レノ議員ト雖モ民選議院ヨリ許サレタル暇アルニ非
レハ他行スルコトヲ得ス○鑑札ハ議長ノ調印ス可キ者ニシテ至急ノ
場合アルニ非レハ議院ヨリ暇ヲ許シタル後ノミ議長ヨリ之ヲ渡ス
可シ

第九十一條 議長ハ決定書ヲ以テ民選議院ノ取締及掌管ノ細務ヲ定
ム可シ

○千八百五十二年一月十四日ノ憲法ヲ釋明シ且之ヲ更改スル千八
百五十二年十二月二十五日ヨリ三十一日ニ至ル元老院決定書

第十三條 憲法ノ第四十二條ニ記シタル摘撤書ハ之ヲ公ケニ爲ス前
ニ議長及ヒ議院合局ノ長ヨリ集成シタル掛リ官員ニ示ス可シ若シ
之ヲ可トスル者ノ數ト非トスル者ノ數ト相均シキ時ハ議長ノ説ヲ
以テ決ス可シ

議院ノ席上ニ於テ誦讀ス可キ會議ノ調書ニハ議院ノ所爲及ヒ可否
ヲ述フル者ノ數ノミヲ記ス可シ

第十四條 議院ノ員ハ通常ノ集會又ハ臨時ノ集會ノ時間毎月二千五
百ヲランビノ俸給ヲ受ク可シ

第十五條 後備兵隊ノ指揮官ハ議員ノ列ニ加ハルコトヲ得可シ○其指
揮官現ニ兵役ニ即ク時ハ千八百五十二年十二月一日ノ勅書ノ第五

條及ヒ千八百三十九年八月四日ノ法律ノ第三條ニ循ヒ議員ノ職ヲ退キタル者ト看做ス可シ

○佛蘭西一千八百五十七年

○憲法ノ第三十五條ヲ更改スル千八百五十七年五月二十七日ノ元老院決定書

第一條 憲法ノ第三十五條ハ左ノ如ク之ヲ更改ス

選舉ヲ爲ス者三萬五千人毎ニ代理者一員ヲ議院ニ出ス可シ然レ一州ニテ選舉ヲ爲ス者ノ餘數一萬七千五百人ニ過クル時ハ其州ニ於テ更ニ代理者一名ヲ議院ニ出スヲ得可シ

第二條 此元老院決定書ニ循ヒ皇帝ノ勅書ヲ以テ各州ニ於テ選舉ス可キ代理者ノ姓名簿ヲ規定ス可シ

○佛蘭西一千八百五十八年

○議院ノ員ニ選舉ヲ得ント欲スル者投票ヲ始ムル日ヨリ前八日內ニ千八百五十二年十二月二十五日ノ元老院決定書ノ第十六條ニ定タル誓詞ヲ記セシ書ヲ州長ノ官署ニ納ムヘキヲ規定シタル千八百五十八年二月十七日ノ元老院決定書

第一條 議院ノ員ニ選舉ヲ得ント欲スル者ハ投票ヲ始ムル日ヨリ前八日內ニ千八百五十二年十二月廿五日ノ元老院決定書ノ第十六條ニ定メタル誓詞ヲ記シ自己ノ姓名ヲ手署シタル書ヲ議員ノ選舉ヲ爲ス州ノ州長ノ官署ノ書記局ニ自カラ納メ又ハ公正ナル証書ヲ以テ任セシ名代人ヲシテ之ヲ納メシメサレハ選舉ヲ受ルヲ得ス其書ニハ

余ハ憲法ヲ遵奉シ且皇帝ニ忠節ヲ盡スヲ誓フ

ト云フノ語ノミヲ記ス可ク若シ此規則ニ背ク時ハ其書ノ効ナカル可シ

其書ヲ納ムル時ハ其受取書ヲ與フ可シ

第二條 議院ノ員ニ選舉ヲ得ント欲スル者ノ姓名ノ公告檢事ノ官署ニ納ム可キ議院選舉ノ廻帖及ヒ投票ノ分派并ニ貼附ハ其選舉ヲ得ント欲スル者前條ノ規則ニ循ヒシ後ニ非レハ之ヲ爲ス可カラス前條ノ規則ニ循ハサル前ニ選舉ヲ得ント欲スル者ノ姓名ノ公告議院選舉ノ廻帖及ヒ投票ノ分派並ニ貼附ヲ爲ス時ハ千八百四十九年七月廿七日ノ法律第六條ニ記スル所ノ刑ニ處セラル可シ

第三條 議院ノ員ノ選舉ヲ爲ス時間相當ノ定期内ニ此元老院決定書ノ第一條ニ記セシ諸件ヲ行フタル者ハ其姓名書ヲ州長ノ證セシ後

之ヲ選舉ノ官署ニ納ム可シ

第四條 此元老院決定書ノ第一條ノ規則ニ循ハサル選舉ヲ得ント欲スル者ノ姓名ヲ記シタル投票ハ其効ナク後ニ投票ノ數ヲ算計スル時之ヲ算入ス可カラス唯之ヲ選舉ノ調書ニ附加ス可シ

○佛蘭西 一千八百六十六年

○憲法及殊ニ其第四十條第四十一條ヲ更改シタル千八百六十六年七月十八日及二十二日ノ元老院決定書

第三條 千八百五十二年一月十四日ノ憲法ノ第四十條ハ左ノ如ク更改ス

法律ノ議案ヲ取調フル任ヲ受ケタル委員ノ採用セシ法律議案ノ更改書ハ議長ヨリ之ヲ參議官ニ送ル可シ

其委員又ハ參議官ノ採用セサル其更改書ハ議院ニ於テ之ヲ熟思
シ更ニ取調ヘシムル爲メ其委員ニ送還ス可シ

若シ其委員其更改書ニ從ヒ議案ヲ改ム可キヲ申立サル時又ハ
委員ヨリ申立タル更改書ヲ參議官採用セサル時ハ其議案ノ原本
ノミヲ議ス可シ

第四條 議院ノ通常ノ會議ノ時間ヲ三月ニ限定セシ千八百五十二年
一月十四日ノ憲法第四十一條ノ規則ハ之ヲ廢ス○但シ皇帝ノ勅命
ヲ以テ會議ヲ終フ可キヲ言渡ス可シ
議院ノ員ノ受ク可キ官俸ハ其會期ノ長短ヲ問ハス通常ノ會議毎ニ
一萬二千五百フランニシタル可シ
臨時ノ會議ノ時ハ千八百五十二年十二月廿五日ノ元老院決定書ノ

第十四條ニ記スル所ニ循ヒ其官俸ヲ定ム可シ

○英吉利

夫レ下院ハ國中衆庶ニ代リテ其政ヲ議スル所以ノモノニシテ、
リ―三世第四十九條ニ因テ初メテ其集會ヲ許シナイト郷土或ハ縣ノ各代
人若クハ府民或ハ其各代人等會同ノ共ニ其事ヲ商議シタリ一千四
百二十九年ヘヌリ―四世郷土撰擧ヲ整シカ爲メ定法第四條ヲ立テ
シヨリ議院ニテ許多ノ定法ヲ立テタリ而シテ其法出テシ前ハ王命ヲ
下シテ撰士並ニ撰擧ニ逢フ可キ人ノ數及其人ト爲リ等ヲ限制スル
ヲ得太々擅横ノ權アリシト又縣撰ノ法ハ則チ府ヨリモ稍正シク其
規則モ亦煩ハシカラス各縣ヨリ二人ヲ撰ヘリ而シテ府ノ撰士ヲ定

ルノ法常ニ一ナラス殊ニ合併ノ府ハ古俗舊許及特權等ニ依リ其數大ニ差ヘリ¹ドウアー¹一世ノ時ヨリ¹ドウアー¹四世迄其許シヲ受タル府撰士ノ數百七十人アリ¹ヌリー¹八世即位ノ時ニ於テ府縣撰士ノ全數百四十七人ニ減シ其頃¹ウエール¹区ノ各代人加ハリシヨリ撰士ノ數大ニ増シ王政再興迄府ノ撰士益増加セリ是ヨリ前キ議員其撰士ヨリ給料ヲ受ケシト雖¹モ議員自ラ費用ヲ支ユル習慣トナリシヨリ嘗テ貧フシテ之ヲ給スル能ハサルヲ以テ各代人ヲ遣ル¹ヨリ省レタル舊府再ヒ其權ヲ得¹コヲ欲シ¹ドウアー¹四世ヨリ¹チャール¹一世迄加ハリシ者多クハ府員ナリ¹チャール¹一世第四議會ニ¹インギランド¹「ウエール¹区¹府¹除¹ク¹ヨリ議員ヲ遣リシ撰士ノ數二百十人アリ¹ヌチユワル¹止家ノ時ニ於テ下院議員ノ全數大約五

百人アリ¹ア¹ヒ女王ノ世ニ當リテ蘇格蘭ヲ合併シ四十五人ヲ加ヘシ¹ノミニテ其時ヨリ議員ノ數大ニ變ル¹コナシ次ノ一大變ハ一千八百年間ノ初ニ於テ愛爾蘭ヲ合併セシ時ナリ其時ヨリ下院ノ議員愛各代人百人ヲ以テ増シ其後新ニ議員ヲ撰フ處ヲ作¹コシ¹大學¹校¹且議員撰舉ノ權ヲ衆ニ廣ムルニ依テ逐次増加スト雖¹モ以來下院ノ議員ノ數六百五十内外ニシテ大ニ變ル¹コナシ通常改革議案ト稱スル¹ウイ¹ルヤ¹四世第二ノ定法ニ依テ數縣ヲ分チ別ニ議員ヲ撰ハシメ英縣撰士ノ數五十二人ヨリ八十二人ニ増シ縣員ノ全數九十四人ヨリ百五十九人ニ及¹蘇¹及¹愛¹縣¹ノ各代人ハ前ニ同シ此改革定法ニ據レハ一千八百三十一年ニ於テ人口各二千以下ニシテ共ニ議員百十一人ヲ遣リシ五十二ノ英府全ク議員撰舉ノ權ヲ失ヒ各四千以下アル他ノ

三十府名代人二人ノ代ニ一人ヲ遣ルコト成レリ然レ各二萬五千人アル二十二ノ新府二員ヲ遣ルノ權ヲ得又一萬二千人アル他ノ二十新府一員ヲ遣ルコトヲ得而ソ蘇ノ府員十五名ヨリ二十三ニ増シ蘇格蘭合併ノ時定メタル數ヨリ多キコト八人ナリ一千八百三十二年ノ定法ニ就キ下院議員ノ撰擧大ニ變更セシハ一千八百六十七年及一千八百六十八年ノ改革ナリ右ノギランデニ於テ此新法最緊要ナルモノハ第三條並四條ニシテ甲法以テ縣中撰擧ノ法ヲ立テ乙法以テ府中撰擧ノ法ヲ定ム而ソ第三條ノ定法ニ由テ縣人各列ヲ一ト出ス事ヲ其戶籍ニ記シ其上ニテ左ノ條件ヲ以テ其議員ヲ撰フ可シ

第一 二十一歳以上ニシテ總テ法律上障礙無キ人外人二十一歳以下ノ人狂人寺院ノ救恤ヲ受或ハ死罪ニ坐セラレ若シクハ獄ニ繋ル等ニテ法律前故障アル人ニ反シテ云フ

第二 府内住家ヲ持チ或ハ借リ毎年七月晦日且撰擧ヲ受ケタル年ノ十二ヶ月間其家ニ居ル人

第三 縣内住居ノ間尋常住人ニ依テ拂フ可キ貧民救恤稅ヲ其所有ノ品ニツキ同ク之ヲ拂フタル人

第四 同年七月二十日前尋常住人ニ依テ拂フヘキ貧民救恤稅ノ封度ヲ以テ同正月五日前其所有品ニツキ同ク之ヲ拂フ可ク其規則ハ左ノ如シ

縣ニ居ヲ分ツテ住ミ而ソ七月晦日前十二ヶ月間獨リ其居ヲ借リ同家ニ住ミ其居ハ一家或ハ同家ノ部ニシテ家内諸具ヲ除キ年々一封度以上ノ價スル家ニシテ七月晦日前十二ヶ月之ニ住ヒ而ソ別ヲ一ト出ス者ト云フコト其戶籍ニ記シタル人但地方ニ於テ一

家同居スルヲ以テ列ヲ一トシテ出スコトヲ戸籍ニ記ス權ヲ失フ者ハ此例ニ非ス

第四條ノ定法ニ由テ府内ノ人各列ヲ一トシテ出者ト云フコトヲ其戸籍ニ記シ其上ニテ左ノ條件ヲ以テ其議員ヲ定可シ

第一 二十歳以上ニシテ都テ法律上障礙無ク註解前在リ其生涯或ハ他人ノ生涯若シクハ何等ノ人ノ生涯土地家産ヲ所持スル者ヲ除キ年期ヲ限リテ借リタル土地田産等ヲ所持シ其事ニツキ訴訟起ルキハ其裁判局ニ於テ捕縛サレ或ハ其爲メ諸税及諸費ヲ拂ヒ殘ル所尙年々五封度以上ノ價アル地産ヲ所持シ或ハ其爲メニ諸税及諸費ヲ拂ヒ年々殘ル所尙五封度以上ノ價アル物ヲ元ト定ル約定ニテ其期ノ長短ニ關ラス六十年間以上取リ結ヒ期限未タ終ラス

又何等ノ約束ニテ所持スル土地及他ノ財産等ヲ人ニ貸シ或ハ任スルコトヲ得ル人

第二 七月晦日且撰舉ヲ受ケシ前十二ヶ月間十二封度以上ノ價アル府内ノ土地ヲ所持シ或ハ年期ヲ限リ之ヲ借リタル人

第三 府内住居ノ間其所有品ニツキ窮民救恤ノ税ヲ拂フタル人

第四 同年十月二十日正月五日前所有品ニツキ窮民救恤ノ税ヲ拂フタル人○大ニ議員選舉ノ權ヲ擴充センカ爲メ立テタル一千八百六十八年改革定法ニテ一千八百六十八年及一千八百六十六年ニ於テイングランド及ウェールズ府縣選士ノ全數左ノ如シ

府 百二十二萬零七百十五人 縣 七十九萬九千九百十六人

總計二百零二萬二千六百三十一人

一千八百六十六年

府 五十一萬四千零三十六人 縣 五十四萬二千零三十三人

總計百零五萬六千六百五十九人

府增 七十萬零六千六百八十九人 縣增 二十四萬九千二百

八十三人 總計九十五萬五千九百七十二人○此改革定法ニテ

イソギランド及ウエール区撰士ノ全數百萬餘ヨリ二百萬ニ増シ

之ヲ細カニ言ヘハ百ニ九十分半ノ割合ナリ而メ之ヲ増ス多クハ

府ニアリ其撰士百三十七分ヲ以テ増シ即チ前ヨリ一倍三分ノ一

ナリ又縣ニテ増ス數ハ唯四十六分ニシテ即チ府内撰士三分ノ一

ナリ○蘇格蘭及愛爾蘭ノ集會ニ於テ一千八百六十八年議決スル

改革定法ハ樞要事件イソギランドト大ニ違ヘリ其定法ニ據レハ
 縣内選舉ノ權ハ都テ二十一歳以上ノ男子ニシテ法律上障碍無ク
 又困窮ノ餘リ貧民救恤稅ヲ除カレ或ハ其稅ヲ拂フ能ハス若クハ
 十二ケ月中ニ寺院ノ救恤ヲ受ケタル者ニ非サレハ十二ケ月間家
 屋ヲ所持シ或ハ年期ヲ限リ其家屋ヲ借リタル人ニ歸スヘシ又別
 ニ居ヲ分テ同府ニ住居シ家具ヲ除キ年々十封度以上ノ價アル屋
 ヲ借り十二ケ月間獨リ之ヲ有チ且ウヲ止ヲ出ス者ト云フコトヲ
 戶籍ニ記セシ者ニハ其撰舉ノ權ヲ與フベク又六ヶ月以上居住ノ
 爲メ費スモノヲ除キ尙五封度ノ價アル家屋ヲ所持スル縣人ヘハ
 列ヲ止ヲ出スコトヲ許スヘシ又愛爾蘭ノ改革定法ハ縣内撰舉ノ
 コニツキ更ニ變更ナシ然レモイソギランドニ於テ定メタル規則

ニ應スル人ニシテ四封度ノ價アル家屋居住ノ縣人ハ其權ヲ得ヘ
 シ〇一千八百六十七年並ニ一千八百六十八年ノ改革定法中撰擧
 ニツキ都テ古來ノ法律上須要ノ條件ヲ存セリ其條件ニ據レハ外
 人二十一歳以下ノ人狂人寺院ノ救恤ヲ受ケ或ハ死罪ニ坐セラレ
 若クハ獄ニ繫カル、等ノ人ハ刑ヲ止ヲ出スノ權ヲ得ヘカラス
 〇齒未タ二十一ニ滿タサル者議員トナル能ハス租稅證印稅等ヲ
 收ムル有司モ亦其撰擧ニ當ルヘカラス又イングランド政府ノ記
 録官及合衆王國トラングランド「インギランド」アイランド「スコツ」ノ裁判役英ノ上
 僧及下僧スウェーデルス蘇羅馬宗ノ僧侶政府ノ爲メニ諸物ヲ調達スル人
 法令ヲ施行スル官及事務ヲ行フニハ其處ニ歸ラサルヲ得サル地
 方官等皆其撰擧ニ當ルヘカラス又英蘇ノ貴族ヲ下院ニ選フヘカ

ラス唯愛ノ貴族ノミ其撰擧ヲ受ケ外人及逆罪或ハ死罪ニ坐セラ
 レタル者其撰擧ヲ受クヘカラス下院ノ議員ヲシテ自ラ其行ヲ立
 テ其志ヲ枉ケサラシメンカ爲メアリレ第六條ノ法ニ由テ議員別
 ニ王ヨリ官職ヲ受ケ利潤ヲ得ハ其席ヲ除キ新令ヲ出シテ他人ヲ
 選フコトヲ得然レモ一千七百五年來ノ新官ヲ受ルニ非サレハ再ヒ
 議員ノ選舉ニ當ルコトヲ得ヘシ是收稅事務宰相ノ賜ニテ名ノミノ
 官ナルヲエルテルレ百家ノ管事ヲ受ケ之ヲ辭スルコト能サル人ヨ
 リ其任ヲ解カンカ爲メナリ〇一千八百七十一年ノ集會ニ合衆王
 國ノ三大部ヨリ議員ヲ遣ルコト左ノ如シ
 ینگランデ及ウエール区
 百八十七人五十二縣并ニウハイ止島

三百一人 二百府 五人 三大學校

總計四百九十三人

スコットランド

三十二人 三十三縣 二十六人 二十二府

二人 四大學校

總計六十人

アイルランド

六十四人 三十二縣 三十九人 三十二府

二人 一大學校

總計百五人

全國總計六百五十八人

一千八百六十九年議會ノ布告ニ云ク方今議員選舉配當ノ法ニ從ヘ
 ハリソングランデ及ウエール区ハ四百九十三人スコットランドハ三
 十人アイルランドハ百二十人ヲ遣ルノ定メナリト雖モ若シ人口ノ
 多寡ニ由テ之ヲ準セハリソングランデ及ウエール区ハ四百六十九人
 スコットランドハ六十九人アイルランドハ百二十人ナルヘク租稅
 ノ多少ニ從テ之ヲ準スルモハリソングランデ及ウエール区ハ四百九
 十六人スコットランドハ九十三人アイルランドハ六十九人ナルヘ
 シ又兩數ノ中ヲ執リ之ヲ定メハリソングランデ及ウエール区ハ四百
 八十二人スコットランドハ八十一人アイルランドハ九十五人ナル
 ヘシ

卷六 凡高祿ノ官人并帝王ヨリ養老金ヲ賜ル者等ハ下議院ノ議員タ

ルヲ得ス

○獨逸

第二十條 下院ハ秘密ノ投票ニ由リ全國ノ直接ナル撰擧ヲ以テ編制ス
ライクスマンス○一千八百六十九年五月三十一日ノ撰擧法ノ第五條ニ掲載シタル改正ヲ實施セラレサル間ハ
バイビエールハ四十八名可イルテンベルグハ十七名
マーデヒハ十四名
マイ区河南ニ在ル
マッセルハ六名ノ代議士ヲ派出ス故ニ下院議員ノ全員三百八十二名トス
第一條ノ原註ニ記タルアルサス
二州ヨリ十五名ノ議員ヲ派出スル故ニ現今九十七名今議員ノ全員ハ三百九十七名トス但北獨逸聯邦ヨリ出ス所ノ二百九十七名ヲ合算ス

第二十一條 官吏ハ下院ニ參入スル爲ニ認准ヲ得ルニ及ハス○下院ノ議員ハ俸給アル職務ヲ帝國或ハ聯邦各國ヨリ命セラレ或ハ帝國

及聯邦各國ニ於テ前官ヨリ貴キ官位或ハ多キ俸給アル職務ヲ命セラレタル
片ハ該議員ハ下院ニ於テ其職務及投言ノ權ヲ失フ而シテ新ナル撰擧ニ由テ下院ニ於テ更ニ其職務ヲ復スルヲ得可シ

第二十二條 下院ニ於テ一切ノ取扱フ可キ事ハ公行トス下院ノ集會ニ於テ種々ノ事務ニ關スル眞正ノ記事ニ付其責ニ任セス

第二十三條 下院ハ帝國ニ關係ス可キ事件ニ付キ新法ヲ起艸スルノ權ヲ有ス又ハ下院ニ指出サレタル願書ヲ上院ノライクスカンツレルニ送呈スルノ權ヲ有ス

第二十四條 下院ノ立法時間議員ノ任期ヲ謂フハ三年トス○此三年ノ時間中下院ヲ解散スル爲ニハ上院ノ決定及皇帝ノ許可ヲ必要トス

第二十五條 下院ヲ解散シタル場合ニ於テハ解散シタル日ヨリ六十

日ノ間ニ撰舉人ヲ徵集シ九十日ノ間ニ更ニ復タ下院ヲ徵集ス可シ
 第二十六條 下院ノ承認ヲ得シテ下院ノ延會ヲナスノ時間ハ三十
 日ニ過ク可カラス且下院ノ延會ハ一周會間ニ於テ再スルコトヲ得ス
 第二十七條 下院ハ議員タル者ノ權利アルヤ否ヲ審糾シ而シテ之カ
 決定ヲナス下院ハ一ノ規則「ゲシユフツオル
ドヌン」ヲ云フニ由テ事務ノ規程及取
 締ノ事ヲ決定シ議長一名副議長數名及書記官數名ヲ撰舉ス
 第二十八條 下院ハ全員ノ過半數ヲ以テ事ノ決定ヲナス下院ノ決定
 ノ効ヲ有スル爲ニ此建國法ニ定タル全員ノ過半數ノ出頭ヲ必要ト
 ス下院ニ於テ此國憲ニ據テ帝國ニ干涉セサル事件ヲ決定スル時ハ
 該事件ニ關係シタル聯邦各國ヨリ派出シタル議員ノミ其投言ヲナ
 ス可シ

第二十九條 下院ノ議員ハ全國民ノ總代タリ或ハ囑託及命令ヲ以テ
 之ヲ強ヒラル、コトヲ得ス

第三十條 下院ノ何レノ議員ニテモ其投言職務及說話ノ爲ニ裁判所
 ニ告訴セラル可カラス或ハ何レノ方法ニテモ集會ノ外責任アルコ
 ナシ

第三十一條 現行罪犯ニ非ス又ハ二十四時間ニ拿捕スルニ非サレバ
 下院ノ承認ヲ得シテ下院ノ議員ハ集會ノ時間罰ス可キ事犯ノ爲
 ニ裁判所ニ提喚セラレ及拿捕セララル、コトヲ得ス○要償ノ爲ニ議員
 ヲ拿捕スルニ於テモ之ト同一ノ承認ヲ必要トス○下院ノ議員ニ對
 スル治罪及審判ニ付テノ禁錮及民事ニ付テノ禁錮ハ下院ノ求メニ
 因テ其集會ノ時間之ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

第三十二條 下院ノ議員ハ議員タルニ由テ官俸及償額ヲ受クルヲ得ス

○普魯西

第六十九條 下院ハ民選議員三百五十二人ヲ以テ構成ス○選區ハ法章之ヲ定ム代議士ヲ撰フ爲ニ地方ヲ區分ス之ヲ選區ト云一選區代十七日ノ法定テ○選區ハ一區地方固有ノ區ヲ云普魯西或ハ數區ヲ以テ成ル

第七十條 凡滿周二十四歲以上ノ普魯西國民ハ其住ム所及邑會議員ヲ撰フノ權力ヲ有スル所ノ本邑ノ初級撰舉人タリ撰舉法分テ二級トス其一初級撰舉人ハ凡二十四歲以上ニシテ民權ヲ享有シ六月以上本邑ニ住ミ而シテ義務料ヲ受ケザル者皆上級撰舉人ヲ推舉スルニ預カル一名公

撰人ニナリ其一上級撰舉人ハ公撰人ノ推舉ヲ受ケテ國會議士ヲ撰拔スルノ任ニ居ル者ニナリ平民ヲ初級撰舉人トシ以テ上級撰舉人ヲ撰ヒ上級撰舉人ヲシテ議士ヲ撰ハシム○邑會撰舉ノ權アル者ハ一年以上本邑ニ住ミ家宅若クハ家業アリテ稅納ヲ欠カザル者ニナリ
○邑會ニ於テハ衆邑ニ撰舉ノ權ヲ兼ヌル者ト云凡國會公選ニ於テハ特ニ一邑ニ止マル邑會ノ例ヲ引テ衆邑ニ跨リ

第七十一條 民口二百五十ノ爲ニ一ノ撰舉人ヲ撰フヲ要ス上級撰舉人ヲ云○二百五十口ゴトニ一區ヲ成スニ非ス即チ一區ノ出ス所ノ撰舉人ヲシテ二百五十口ニシテ一人ヲ得ルノ比例ニ依ラシムルナリ
一區ハ撰舉人六人ヲ得ベキノ戸口ヲ要ス全國大公撰人即チ初級ハ抵七萬三千ノ撰舉人ヲ得(ストランツ)氏ニ据ル
其直稅ニ從ヒ各部稅額均等ナラシメ分テ三部トナス上級撰舉人ヲ撰フ爲ノ一選區ノ初級撰舉人ヲ分テ三部トス各人ノ貧富ニ稅額全數ヲ算スルノ法ハ先全數ヲ得ザレハ以テ三部ヲ分ツベカラス
甲若一邑自ラ一選區ヲ成ス時ハ邑ゴトニ算ス此選區ハ上級撰舉人ヲ撰フ爲ノ選區ニシ

テ第六十九條ニ謂フ
所ノ選區ニアラズ

乙若數邑合セテ一選區ヲ成ス時ハ區ゴトニ算ス

第一部ハ最富ノ民ヲ合セ稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル

第二部ハ次等ノ民ヲ合セ稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル

第三部ハ下等ノ民ヲ合セ稅額全數三分ノ一ヲ得ルニ至ル

每部各其撰舉人上級撰ヲ撰フ即チ撰舉人全數ノ三分一ヲ撰フ故ニ

人ノ上級撰舉人ヲ撰フハ選區ヲ以テスレハ戸口ニ比率シ各部ヲ以

テスレハ稅數ニ比率ス戸口ト稅數ト互ニ經緯ヲ爲ス

數部合シテ一ノ選舉會ヲ結フヲ得但公撰人五百員ヲ踰ユルヲ

得ズ多衆事ヲ滋ス○每部ヨリ出ス撰舉人上級撰ハ本選區中貫屬ノ

人ニ取ル分部ニ拘ラス本選區中ノ貫屬ニ在レハ甲部ヨリ

第七十二條 代議士ハ上級撰舉人ヨリ之ヲ撰派ス第七十條第七十一

リ上級撰舉人ヨリ代議士ヲ撰フヲ云ハ上○民選施行ニ付キ宅ノ條規及
級撰舉人ヨリ代議士ヲ撰フヲ云ハ上
○民選施行ニ付キ宅ノ條規及
雜稅屠稅ヲ收ムル府市ニ係ルノ條規ハ麥ト肉ノ市稅ヲ收ムル 民選
法之ヲ定ム

第七十三條 下院ノ任期ハ三年ト定ム

第八十五條 下院ノ議員ハ國庫ヨリ路費留費ヲ受ク是レ償餉ニシテ

僅ニ費ヲ○議員ハ之ヲ辭スルヲ得ズ富ム者ハ廉ニ誇テ貧キ者

償フノミリナ

○澳地利

二篇第六條 下院ハ公撰議士二百三員ヲ以テ成ル但各王國各部ニ於
テ公選ス可キ議士ノ員數ヲ限ルヲ左ノ如シ

- 伯閱王國 ボエーム 五十四員
- 塔馬王國 タマ 五員
- 牙里西及羅多米里王國 カリシイロドミリ 三十八員
哥拉可維公國附
- 安斯河東ノ澳地利部 アンス 十八員
- 安斯河西ノ澳地利部 アンス 十員
- 薩耳不爾厄侯國 ザルブ 三員
- 士的里亞侯國 スチリア 十三員
- 加郎西侯國 カランシ 五員
- カルニオル侯國 六員
- 布哥維納侯國 ボゴビナ 五員
- 默隣部 ムツリン 二十二員

上下細勅西亞侯國 六員

的邏爾伯國 チロル 十員

窩拉爾堡 ボラール 二員

壹士的亞部 イストリア 二員

廓里西及略拉日斯加 クリシイラジスガ 二員

得利益府及其屬地 トリベツト 二員

第七條 各州ニ於テ定員ノ代議士ハ各州會議員ノ選舉スル所トス○
選舉ハ投撰ノ過半數ヲ以テス可シ但各部府郷ニ設クル州會ノ議員
中ヨリ該部府郷ニ配當セル定員ニ過不及ナキ下院ノ代議士ヲ投選
スルヲ以テ制トナス○各部府郷選舉區ノ畫域及該區中ヨリ選舉ス
ベキ代議士員ノ配當ハ州會ノ起議ニ因リ憲法之ヲ定ムルニ非レハ

修正スルヲ得ス○皇帝ハ特別ノ形情アリテ州會ヨリ下院ニ代議士ヲ派遣スルヲ能ハサルニ際シ部府若クハ郷ニ命令シテ直接選舉モクシオンシメント部府郷ノ人民ヲシテ直ニ自ラヲ行ハシムルヲ得ベシ○直接選舉代議士ヲ投擧セシムルヲ云フヲ行ハシムルヲ得ベシ○直接選舉ハ各部府郷ノ選舉區ニ定メタル下院代議士ノ員數ニ照シ該區ニ於テ州會議員ノ選舉ニ參與スル人民之ヲ行フヘシ又嗣後設定スヘキ直接選舉及選舉區ノ畫域ニ關スル條則ハ憲法ノ式ニ倣フテ規制スヘシ

第八條 下院ノ代議士ニ拔選セラレタル政府ノ官吏ハ其代議士ノ職ヲ行フタメニ離職ヲ請フヲ要セス

第十八條 各州ヨリ下院ニ派遣スル議士ノ任務ハ新タニ州會議員ヲ召集スルノ日ニ至リテ乃チ廢ス○各州ヨリ派遣スル前任ノ議士ハ

再ヒ其選ニ當ルヲ得○議士死去シ身位ヲ失ヒ故障アリテ久ク議會ニ出席セス職務ヲ退罷シ若クハ之ヲ派遣シタル州會ノ議員ノ職ヲ止ムル時ハ宜ク之ヲ新選スベシ

○米利堅

第一條第二節 下院ノ議員ハ二年毎ニ各州ノ人民ヨリ撰擧ス可シ而シテ其各州ニ於テ議員ヲ撰フ者ハ各州議政數部ノ官員ヲ撰フ可キ人ニアラサレハ其權力ヲ與フ可カラス

第三節 齡未タ二十五ニ至ラス又合衆國ノ戶籍ニ入り未タ七年ヲ經サル者及ヒ其撰擧ニ當リシ時其州ニ住居セサル者ハ敢テ下院ノ議員ト爲ス可カラス

○白耳義

第四十七條

代議士院ハ國民直ニ撰フ所ノ代人ヲ以テ成ル獨乙國ノ如キハ國

民撰舉人ヲ撰ヒ撰舉人代議士ヲ撰フ猶一間ヲ隔ツ白耳義ニ於テハ國民即チ撰舉人タリ故ニ直ニ撰フト云フ

國民トハ撰舉法定ムル所ノ直稅百ヲロラ、以下二十ヲロラ以上

ノ歲額ヲ納ル、者ニ限ル又儒醫代言ヲ業トスル者ハ撰權ヲ得○下院計百二十四人

第四十八條

代議士ノ撰ハ法章定ムル所ノ區分ニ依リ、地ヲ分テ撰舉

及法章定ムル所ニ於テ之ヲ行フ區ノ首府ニ於テス

第四十九條

撰舉法民口ニ從テ代人ノ數ヲ定ム四萬人一員ノ比例ヲ

越コルコヲ得ス○撰舉法又撰舉人タル爲ノ約束刑人貧人ハ撰舉及撰舉ノ方法ヲ定ム此撰舉法ニ詳ナリ故ニ建國法ニ略ス

第五十條

撰ニ當ルベキ爲ニハ

第一 生レテ白耳義人タルコ若クハ大歸化ノ許ヲ受ケタルコ外國人ヲ

以テ大歸化ヲ行フタル者ハ生レテ白耳義人タル者ニ同シ

第二 私權及政權ヲ享有スルコ民權ヲ全有スルヲ云フ

第三 滿周二十五歲ナル事

第四 白耳義國ニ居住スルコヲ要ス

其它撰ニ當ル爲メニ一ノ約束ヲ望ムコヲ得ス撰ニ當ル爲メハ貧富ヲ論セス

第五十一條 代議士院ノ議員ハ四年ヲ一期トス○撰舉法ニ定メタル

次序ニ從ヒ毎二年議員ノ半ヲ更撰ス

第五十二條 代議士院ノ各員ハ開會ノ間一月二百ヲロラ、レノ償給ヲ

受ク○會ヲ開ク所ノ都府ニ住ム者ハ償給ヲ受ケス償給ハ獨リ旅費ニ供ス

第九十條 代議士院ハ諸執政ヲ論告シテ之ヲ大審院ニ提喚スルノ權

ヲ有ス大審院ハ全員合會シテ大審院分テ數局トス今之ヲ裁判スル
 ノ權ヲ專有ス大臣ヲ審判スルハ但被害人ヨリ要償ノ私訴罪犯ノ爲
受ケタル者民法ノ訟ヲ以テ及執政ノ職務ノ外ニ犯シタル重輕罪私罪
テ賠償ヲ要求スルヲ云フ民ニ係リ法章ニ定ムベキ可キトハ未然ノ辭其法未者ハ此例ニア
ラス職務罪ハ國事ニ關カル殊ニ重大トス故ニ議院論告シテ大審院
是ナリ我律ノ所謂公罪ト同カラス

○瑞典

第四十九款 議院ハ瑞典國人民ノ名代タリ現今ノ法律ニ依テ國中ノ
 紳庶人等ニ屬スル處ノ權利ト職分ハ向後此議院ノ所有ニ皈スヘシ
 議院ハ兩局ニ分レ其議員タル者ハ各代人撰擧ノ法律ニ照シテ撰擧

セラルヘシ○萬機ヲ議論スルハニ當リテ兩局ハ一様ノ威權アルヘ
 シ○尋常ノ議院ハ現今ノ政体ニ基キテ毎年第一月十五日若シ其日
 祭日ニ當レハ其翌日ニ集會スヘシ然レ國王ハ尋常休會ノ間ニ臨時
 ノ集會ヲ命スルコトアルヘシ○臨時ノ集會ハ國王特ニ集會ヲ命スル
 處ノ事務或ハ國王ヨリ出シテ之ニ關係ノコトヲ議論スヘシ

第五十款 議院ハ王國ノ都府ニ集會スルヲ要ス然レ若シ敵軍迫リ來
 リ或ハ疫病等流行シテ集會スルコト能ワサルカ或ハ其自由性命ニ妨
 害アルハ例外ナリトス此時機ニ及フハ國王銀行並國債局ノ委
 員ト商量ノ上ニテ別ニ集會ノ地ヲ定メテ公告スヘシ
 第五十二條 議長副議長ハ國王ヨリ命スヘシ

○西班牙

第二十條 代議士院ハ撰舉會ノ法律ニ依リ定メタル規程ニ循ヒ命スル所ノ議員ヲ以テ成ル但人口五萬ニ少クハ代議士一名ヲ出スヘシ
增補律例第十四條參看

第二十一條 代議士ハ直接投籤法ヲ以テ撰舉ス國民直ニ代議士ヲ撰別ナシノ且永久之ニ重撰セラレ、コヲ得ヘシ

第二十二條 代議士トナルニハ西班牙人ニシテ俗籍ニ入り僧侶ニ非齡滿二十五歲ニシテ私有地ヨリ生スル歲入アルコヲ證明シ又ハ撰舉法ニ定ムル金額ノ直稅ヲ納レ及國法ニ掲クル其他ノ要款ヲ備具スルヲ要ス

第二十三條 凡前條ニ擧ル分限ト要款ヲ備具スル西班牙人ハ何レノ

州ニ於テモ代議士ニ撰任セラレ、コヲ得

第二十四條 代議士ノ任期ハ五ケ年トス

第二十五條 政府若クハ王家ヨリ賜フ所ノ恩賜金又ハ代議士本務外ノ官職代議士院職制外ノ官職ヲ云俸給アル理事員若クハ尊稱爵位增補律例第五條參看

アル代議士ハ改テ其選舉ヲ受クヘシ○此條則ハ執政官ニ選用セラレタル代議士ニ準用セス

第二十六條 國會ハ每歲集會ス其之ヲ召集シ延期シ及會期ヲ中止シ或ハ代議士院ヲ散解スル等ノ權ハ國王ニ屬ス增補律例第六條參看

第二十七條 國會ハ王祚缺位ノ時又ハ事由アリテ國王政ヲ親ラスルコト能ハサル時ハ必ス之ヲ召集スヘシ

第二十八條 立法院ハ總テ犯律ヲ正フスル爲ニ其內制ヲ決定シ及議

員ノ分限ヲ監査ス又代議士院ハ代議士撰舉ノ當否ヲ決判ス

第二十九條 代議士院ハ其議長副議長及書記官ヲ撰任ス

増補ノ第五條 國會ノ代議士ハ其本務内ノ官職代議士院職制内ノ官職ヲ云フ蓋シ理事官

書記官ノ類是ナリヲ受ル時ト雖モ亦改テ之ヲ撰舉スヘシ

第八條 代議士院ノ前許ナケレハ國憲第四十一條ニ豫定スル代議士

ヲ審判スルコトヲ得ス

第十四條 國會ニ出ス代議士ノ撰舉人ノ姓名表ハ之ヲ永存スヘシ毎

改編撰舉人ノ分限ハ何レノ時機ニ於テモ公行ノ對論人民傍聽スル被告人相對シテ辨論スヲ以テ之ヲ檢査スヘシ

○瑞士

第六十九條 列邦議會ハ列邦ノ代議士四十四員ヲ以テ成ル每邦代議

士二員ヲ選命ス分離シタル列邦ハ各半邦ニ於テ代議士一員ヲ選舉ス

第七十條 國議會ノ議員及聯邦行政會員ハ列邦議會ノ代議士ニ兼任スルコトヲ得ス

第七十一條 列邦議會ハ通常期若クハ臨時會期ノ間其員中ヨリ議長

副議長各一人ヲ選フ○議長若クハ副議長ハ前回ノ通常會期ノ間議

長ニ選マレタル列邦ノ代議士中ヨリ選フコトヲ得ス○同一列邦ノ代

議士ハ二回ノ通常會期ノ間引續キテ副議長ノ職ニ任スルコトヲ得ス

○論議兩立スル時ハ議長ノ説ヲ以テ其取捨ヲ決ス官員選舉ニ於テハ議長モ亦他ノ議員ト均ク投票ス

第七十二條 列邦議會ノ代議士ハ列邦ヨリ償給ヲ受ク

○葡萄牙

第十六條 貴族院ノ議員ハ「端正ナル王國貴臣」ノ名稱ヲ有シ代議士院ノ議員ハ「貴重ナル葡萄牙王國代議士員」ノ名稱ヲ有ス

第三十二條 會期ノ暇時甲ノ會期ヲ閉チテ乙ノ會期ヲ開クニ至ニ國

王ハ代議士院ニ其執職ヲ止メシメシテ之ヲ王國外ニ差遣スルヲ得ス但此ハ通常國會若クハ臨時國會召聚ノ時差遣ノ任ヲ被ルニ由リ其出頭ヲ妨クヘキ時機ニ限ルヘシ

第三十三條 國安若クハ國益ニ干渉スル不慮ノ形情アリテ代議士員ニ特務ヲ命スルコトヲ須要トスル時代議士院ハ之ヲ指令スルコトヲ得

ヘシ 増補律例第三條ニ云ク國事ノ爲ニ緊要ナル時機ニ際シ上下各院ハ政府ノ請ニ應シ王國ノ首府ニ於テ服職スル議員ニ該職務(行政務)ノ履行ト立法職ノ兼勤ヲ許スコトヲ得ヘシ
○建國ノ法第三十三條ヲ說明スルコトヲ得ヘシ

第三十四條 代議士院ハ公撰ニシテ有期ノ官ナリ

第三十五條 代議士院ハ第一租稅第二點徴ノ件ニ係リ起草ノ權ヲ專

有ス

第三十六條 左ノ二件モ亦首トシテ代議士院ニ附スヘシ

第一 往時ノ施政ノ檢査及施政上弊害ノ改正

第二 行法官ヨリ出セルプロボシオンスクユシオン起議ノ討論

第三十七條 執政官及參議官ノ劾告ヲ命令スルハ代議士院ノ特任ト

ス

第三十八條 代議士ハ會期ノ間舊議員任期代議士院ノ任期ヲ四年トスル第十七條ニ見ヘタ

リノ最終會議ニ定メタル金給ヲ受クヘシ及特別ノ決議ヲ以テ往返旅費ヲ受クヘシ

第四十八條 代議士院ニ於テ法律議案ヲ嘉納スル時ハ該院ヨリ左ノ式文ヲ添ヘテ議案ヲ貴族院ニ移ス

「代議士院ハ別冊行法權ノ起議書修正ヲ加ヘ又ハ加フルコト無クヲ貴族院ニ送移シテ其之ヲ遂成スヘシト酌量ス」

第四十九條 代議士院ニ於テ議案ヲ嘉納セサル時ハ該院ヨリ左ノ詞ニ於テ七名ノ代理員ヲ以テ之ヲ國王ニ奏告ス

「代議士院ハ王ノ國益ニ注意スルノ厚キカ爲ニ感戴スルノ意ヲ國王ニ證憑ス伏ノ願クハ其政府ノ起議ヲ延留スルヲ諾センコトヲ」

第五十條 凡代議士院ニ於テ許認スル起議ハ左ノ式文ヲ添テ貴族院

ニ移スヘシ

「代議士院ハ別冊ノ起議ヲ貴族院ニ送移シテ其制可ヲ國王ニ奏請スルヲ欲スヘシト酌量ス」

第五十三條 代議士院ハ貴族院ノ起草シタル議案ニ係リ貴族院ニ於テ代議士院ノ議案ヲ議スルト其方法ヲ同フス謂フハ前條ニ掲グル條規ニ循ヒ處分スル

リナ

第五十四條 代議士院ハ貴族院ノ増補若クハ改正ヲ許認スルコトヲ拒ミ原案ヲ以テ裨益アリト審定スル時ハ貴族院及代議士院ヨリ平等數ノ議員ヲ拔テ理事官ニ任シ之ヲシテ該案ヲ納ルヘキヤ若クハ斥クヘキヤヲ決定ス其貴族院代議士院ノ増補改正ヲ拒ンテ原案ヲ主張スル時モ亦然リ

第六十三條ヨリ第七十條ニ至ル此八條ヲ廢棄シ千八百五十二年七月五日ノ増補律例第四第五第六第七

八第九條ヲ充補シタリ

増補律例第四條 代議士員ヲ命スルハ直接撰舉ヲ以テス

第五條 凡民權政權ヲ兼有スル葡萄牙國人ハ左件ヲ證明スルニ由テ

撰舉人トナル

第一 土地資金貿易上若クハ工業上ノ益利ヨリ生シ及轉移スヘカ

ラサル官吏司法官ノ類ノ俸給ヨリ生スル入歳ノ純益金諸費ヲ引去リ

十萬レ以上貨幣ノ名十萬レハヲ有スル者

第二 法律ニ認めタル成年二十ニ至レル者

甲 二十一歳ニシテ左ニ掲クル分限ノ一ヲ有スヘキ者ヲ見做シ

テ成年トナス

一 刑ドルサクレ僧徒

一 婚姻シタル男子

一 海陸軍ノ士官

一 法律ニ準スル大學費ノヲラジュエ生得業

乙 大學費ノ得業生トナリタル國民ハ總テ刑シスエレクトラレ

撰舉○撰舉人トナルカ爲ニ須ノ保證ヲ爲ストヲ要セス
定税○要ト定タル納租ノ額

第六條 左ニ舉クル者ハ議員ヲ投撰スルノ權ヲ失フ

第一 雇役スル者但掌簿人商家ノ主管王家ニ奉仕スル者及田地並

ニ製造所ノ管守人ハ此限ニアラス

第二 治産ノ禁ヲ受ケタル者及倍審官ノ許認シタル劾告ヲ被リ若

クハ終審ノ裁判ヲ受ケタル者

第三 アツフランシ^レノ^レ奴^レノ^レ釋放セラレタル者

第七條 凡投票ノ權ヲ有スル者ハ亦代議士員ニ投票セラル、ヲ得ヘ

シ別ニ本住^{ドミシタル}法律ニ認メ^レ寄住^レ獨リ其身ヲ^レ地^レ若クハ生産地等ノ要款ヲ設

ケス^{本邑ニ幾年以上住居スルニ非レハ議員ニ}左ニ^{投票セラル、}擧クル者ハ代議

士員ニ^{投票セラル、}トヲ得ス

第一 歸化シタル外國人

第二 此増補律例第五條ニ擧クル資本ヨリ生スル歲入ノ純益金四

十萬^レ止^{即チ二千四百四}ヲ有セサル者若クハ同條ノ乙項ニ揭^ナグ

ル大學費ノ品級ヲ得サル者

第八條 代議士ヲ投票スルノ權ヲ有セザル者ハ總テ政府官僚ノ^{ニ參與スル}擧

ニ參與スル^トヲ得ス

第九條 選舉法ハ左ノ條件ヲ規定スヘシ

第一 選舉ノ規程及王國ノ人口ニ比率スル代議士員ノ數

第二 代議士ノ職ト兼勤スヘカラサル官職

第三 國民ノ中其公務ヲ服行スル爲ニ代議士員ニ^{投票}マレサル時機

第四 王國大陸ノ諸州王國附近ノ州及海外所屬ノ州ニ於テ^{投票}定

稅ノ保證ヲナスヘキ方法及規程

第五 撰舉人タルヘキ年齡^{滿二十}ヲ補足シ及撰舉定稅ノ保證ヲ釋

サルヘキ大學費ノ品級

○荷蘭

第七十六條 下院ノ議員ハ王國ヲ區分スル選舉區ニ於テ民權政權ヲ

全有シ及地方ノ情形ニ循ヒ選舉法ニ因テ定タル二十ヲロラシ以上百六十ヲロラシ以下ノ直税ヲ納ル、成年ノ荷蘭國人之ヲ選舉ス

第七十七條 國會議員ノ數ハ四萬五千人ニ一員ノ比例ヲ以テ人口ニ準シテ之ヲ定ム○選舉ノ權ニ係リ遵守スヘキ其他ノ條則ハ選舉法ヲ以テ定ム

第七十九條 下院ノ議員ニ選舉セラル、ニハ荷蘭國民ニシテ民權政權ヲ全有シ齡滿三十歲ナルヲ要ズ

第八十條 數選舉區ニ於テ上院若クハ下院ノ議員ニ選マレタル者又ハ同時ニ兩院ノ議員ニ選マレタル者ハ何レノ選舉ヲ擇ムヤヲ陳述ス

第八十一條 下院ノ議員ハ四歲間其職ニ任ス○下院ハ議員更迭ヲ規

定スヘキ順次ニ循ヒ二歲コトニ其全員ノ半數ヲ更撰ス○前任ノ議員ハ再ビ選ニ當ルヲ得

第八十二條 議員ハ自ラ誓ヒ自ラ欲スル所ニ隨テ公評シ委任狀ヲ受ケス及親ヲ公評セントスル處ノ件ヲ其選舉人ニ稟議セス

第八十三條 議員ハ其任ニ就クニ當リ各奉スル所ノ宗教ノ儀式ニ準シ左ノ誓詞ヲ述ヘ又ハ其約ヲ立ツ

予ハ建國法ニ從順スルヲ誓フ或ハ予レシ予ハ建國法ニ從順スルヲ誓フ或ハ予レシ○故ニ願クハ神明ノ予ヲ惠セ

議員ハ左ニ掲クル誓詞ヲ述ベ又ハ其告白契約ヲ行フノ後ニ右ノ誓約ヲ立ルヲ得

予ハ國會下院ノ議員ニ選舉サル、ガタメニ縱令如何ナル託辭ニ

於テスルモ在職若クハ無職ノ人ニ對シ或ハ親ヲ或ハ人ニ頼リ苟
 モ苞苴ヲ行ヒ又ハ之ヲ約セシコナク且後日此ノ如キノ行事アラ
 ザルベキヲ誓フ或ハ告白 ○予ハ縱令何人ヲ論セス又ハ何ノ託辭ア
 ルヲ待タス凡其職事ノ執行ヲ爲シ又ハ爲サ、ルカ爲ニ或ハ親ヲ
 或ハ人ニ頼リ苟モ苞苴ヲ受ルコナキヲ誓フ或ハ告白故ニ願クハ神明
 ノ予ヲ惠センコトヲ或ハ予レ之ヲ告白
 右ノ誓詞又ハ右ノ告白及契約及之ヲ契約スハ國王ニ對シ又ハ下院ノ會ニ於テ之カタメ國
 王ノ准允ヲ得タル議長ニ對シ之ヲ述フ

第八十四條 議長ハ下院ヨリ奏上スル應撰人三員ノ姓名表ニ因リ一
 會期間國王選用シテ其職ニ任ス

第八十五條 議員ハ會期コトニ道路ノ遠近ニ應シ法律ヲ以テ定タル

旅費ヲ領受ス○議員ハ別ニ每歲二千ヲラビノ償給ヲ領受ス○全
 會期間不在ノ議員ハ其會期ニ於テ右ノ償給ヲ受ケス

第八十六條 上院ノ議員ハ九年在職ス○上院ハ議員更迭ヲ定ムヘキ
 順次ニ循ヒ三歲コトニ其議員ノ三分一ヲ更撰ス○前任ノ議員ハ直
 ニ再選ニ當ルコトヲ得第八十二條ハ上院ノ議員ニ準用スヘシ○議員
 ハ其任ニ就クニ當リ下院ノ議員ノ爲ニ定タル誓詞又ハ告白及契約白ヲ國王ニ
 述フ○議員ハ法律ヲ以テ定タル旅費及滞在費ヲ受ク

第八十七條 國王ハ會期間上院ノ議長ヲ撰任ス

○丁抹

第三十條 品行端正ニシテ瑕瑾ナク及國民ノ權利ヲ享ク滿三十歲ニ

至ル者ハ下院議員ノ選舉權ヲ有ス然レ左ニ記載スル者ハ之ヲ除ク

一 住居ナクシテ人ノ奴僕タル者

一 救助金ヲ受ケ及救助金ノ償却ヲ免レス或ハ自ラ償却セサル者

一 隨意ニ己ノ財産ヲ使用スルコト能ハサル者

撰擧ヲ行フ時一年間本郡及其市街ニ住居セサル者

第三十一條 前條ニ掲載スル所ノ第四項ヲ除クノ外品行端正ニシテ
瑕瑾ナク及國民ノ權利ヲ享ケ滿二十五歳ノ者ハ下院ニ撰擧セラル
コトヲ得

第三十二條 下院議員ノ數ハ民口一萬六千ニ一員ノ比例トス撰擧ハ
法律ニ依テ定タル所ノ各郡ニ於テ之ヲ行ヒ而シテ各郡ハ撰擧ニ應
センコトヲ求ムル者ノ内一員ヲ撰擧ス

第三十三條 下院ノ議員ハ三年間ノ任期ヲ以テ撰擧ス○下院ノ議院
ノ議員ハ法律ニ由テ日給ヲ受ク

○伊太利

第三十九條 下院ハ法律ニ定タル選區代議員ヲ撰フ爲ニ地ヨリ派出
方ヲ區分スル者

シタル代議員ヨリ成ル

第四十條 國王ノ支配ヲ受ケ滿卅歳ニシテ政權民權ヲ享ケ法律ノ規
程ニ適スル者ニ非サル代議員ハ議院ニ參入ス可カラズ

第四十一條 代議員ハ之ヲ派出シタル地方ノ總代ニ非ス全國民ノ總
代ナリ○撰擧人ハ一切代議員ニ教令スルコトヲ禁ス

第四十二條 代議員ノ任期ハ五年トス此年限ノ已ニ終リタル時ハ其

任期モ亦從テ消散ス

第四十三條 議長副議長及書記官等ハ一周會ノ始ニ於テ下院ヨリ公撰ス其任期ハ一周會間トス

第四十四條 代議員任期中解職スル時ハ選區ハ代員ヲ撰フ爲ニ速ニ撰舉人ヲ徵集ス可シ

第四十五條 現行罪犯ヲ除クノ外一周會ノ間ハ代議員ヲ拿捕スルヲ得ス又下院ノ許可ナクシテ刑法ニ觸タル事件ノ爲ニ之ヲ裁判所ニ提喚ス可カラス

第四十六條 下院ノ一周會間ニ於テ要償ノ爲ニ代議員ニ禁錮ヲ宣告シ捕牒ヲ付ス可カラス一周會ノ前後三周日間モ亦然リトス

第四十七條 下院ハ諸執政ノ論告シ最上等裁判所ニ提喚スルノ權ヲ

有ス 第三十六條 参照

第十 元老及代議士兩院通則 上院 下院

○佛蘭西一千七百九十三年

第七十五條 行政院ハ民選議院ノ側ニアルヘシ行政官員ハ民選議員ノ集會所ニ入ルヲ得且格段ノ席ヲ有スヘシ

第七十六條 行政院ハ委托サレタル事務ノ執行ニ就テ陳述セント思フコトアルハ民選議院ニ之ヲ陳述スルノ權アリ

第七十七條 民選議院ハ行政院ノ存意ヲ聽カント思フハ行政院官員ノ全部或ハ一部ヲ呼出スヘシ

○佛蘭西一千七百九十五年

第八十九條 五百員議院ニ於テ艸按至急ナルコトノ公達ヲ爲シタルハ

ハ老人議院其至急ニ付テノ公達書ノ可否ヲ評議スヘシ

第九十條 老人議院ニ於テ右公達書ヲ評議シ草按至急ナラサルコトヲ決定スルハ其草按ノ始末ヲ評議スヘカラス

第二百二十四條 兩院ノ編制全ク成リシ上ハ雙方政事使ヲ以テ相互ニ其旨ヲ報知スヘシ

第二百二十五條 兩院各用ニ供スルタメ議院ノ政事使四人ヲ委任スヘシ

第二百二十六條 議院ノ政事使ノ役務ハ民選議院ノ法律書及他ノ決定書ヲ督理官ヘ送達シ又一方ノ院ヨリ一方ノ院ヘ之ヲ送達スル役ナリ右ノ爲メ議院ノ公使ハシレクトワーレノ決議所ヘ入ルノ權ヲ有スルコトナリ且往來ノ節ハ使吏兩人之ニ先導スヘシ

第二百二十七條 兩院ノ内孰レノ院モ他院ノ承諾ヲ受ケサレハ六日以上會議ヲ延期スヘカラス

○佛蘭西 一千七百九十九年

第六十九條 元老院民選議院及第一等ノ民選議院ノ議員ト國議院議官及都テ詮議ノ職務ヲ有スル官員ハ自己ノ職務ニ就テ責ヲ任スルコトナカルベシ

○佛蘭西 一千八百〇二年

第七十七條 元老院ハ民選議院及第一等ノ民選議院ヲ解散スヘキコトヲ決定セシハ右兩院ノ議員ヲ盡ク改撰スヘシ

○佛蘭西一千八百〇四年

第三十七條 元老院及國議院ハ皇帝之ニ上席スルヲナリ皇帝之ニ上席スルヲ能ハサルハ高位大臣ノ内一人ヲ定メ己ノ代ニ之ニ上席セシムヘシ

○佛蘭西一千八百一十四年

第五十四條 諸卿ハ上院或ハ民選議院ノ議員トナルヲ得ヘシ又諸卿ハ孰レノ院ニモ入ルヲ得ヘキ者ニシテ如シ發言ヲ爲サントスル毎ニ之ヲ必ス聞クヘシ

第五十五條 民選議院ニ於テ諸卿ヲ原告シ之ヲ上院ヘ訴ヘ送ルヲ得

ヘシト雖モ諸卿ヲ裁判スルヲ上院ノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ

第五十六條 諸卿ハ國ニ對シテ叛逆ノ罪ヲ犯シ或ハ強僞收税ノ罪ヲ犯セシキノミ之ヲ訴フルヲ得ヘシ但其罪ノ格類及種類ヲ分定シ且之ヲ原告スル方法ヲ定ムヘキ爲メ格段ノ法律ヲ設クヘシ

○佛蘭西一千八百一十五年

第十四條 上院下院ヲ論セス其議員タル者ハ議院ノ一集會ノ時間ニ之ヲ取押フヘカラスト雖モ議員タル者ハ現行犯罪ヲ爲セシキハ之ヲ取押ヘルヲ得ヘシ尙其議員タル者屬スル所ノ議院ノ格段ノ決定ニ因ラサレハ之ヲ重罪裁判所或ハ輕罪裁判所ヘ訴フヘカラス

第十五條 上院下院ヲ問ハス凡議員タル者ハ本院ノ召會ノ布令ヲ發

シタル日ヨリ其閉會後四十日ニ至ル時間ニ負債ヲ拂ハサル所以ヲ以テ之ヲ押へ或ハ入牢スヘカラス

第十六條 重輕罪ノコニ付テハ上院ノ議員ハ法律ニ定タル法式ニ從テ上院之ヲ裁判スヘシ

第十七條 上院議員ノ役或ハ代議者ノ役ハ計算司ノ役ノ外總テノ役ト之ヲ兼勤スルヲ得ヘシ然レ已ニ州郡長ノ役ヲ勤メ居ル者ハ其支配スル所ノ州或ハ郡ノ撰立人ヨリ之ヲ撰任スヘカラス

第十八條 皇帝ハ上院下院へ諸卿或ハ國議官ヲ出張セシムルヲ得ヘシ右官員ハ其院ニ坐席シ且其協議ニ參加スルト雖レ如シ其官員ハ出張セシ處ノ院ノ議員タル者ニ非サルハ之ニ於テ決議ノ權ヲ受ヘカラス

第十九條 上院ノ議員或ハ代議者タル卿又政府ノ命令ヲ受シニヨリ之ニ坐席スル所ノ卿ハ本院ノ商議ヲ助クヘキ處ノ政府ノ處置ニ付テノ說ヲ述ルヲ得ヘシト雖レ如シ其說國家ノ便益ヲ害スルカ故ニ發露セサル者ナラハ之ヲ陳フヘカラス

第二十條 上院下院ノ開席ニ來聽ヲ許スヘシト雖レ如シ場合ニヨリ兩院共内密ノ商議ヲ爲スヲ得ヘシ乃チ上院ナレハ其議員十人之ヲ願フハ代議者ノ議員ナレハ代議者廿五人之ヲ願フハ又政府議員ニ事ヲ告ントシテ之ヲ願フハト云場合ナリ然ル處何レノ場合ニモ事ノ商議終リシ上投票ヲ爲シ事ヲ決議スルニハ必ス來聽ヲ許ス處ノ總會議ニ之ヲ爲スヘシ

第二十一條 皇帝ハ代議者ト議員ノ集會時間ヲ延ヘ此集會スヘキ日

限ヲ延引シ且此議員ヲ解散スルヲ得ヘシ若シ皇帝之ヲ解散セント
スルキハ之ニ付テ爲シタル公達書ニ新規ノ代議者ヲ撰任スル爲メ
撰立人ヲ召會シ且其集會スヘキ日限六ヶ月内ニ定ムヘシ

第二十二條 上院ハ代議者ノ議員解散シタル後并ニ代議者ノ集會セ
サル間ニ集會スヘカラス

第二十三條 凡法律ヲ進言スルコトハ政府ノ權ニ歸スルコトナリ上院下
院ニ於テ政府ノ進言シタル法律ノ草按ニ付テ改正ヲ進言スルヲ得
ヘシ若シ政府ハ右改正ノ文意ヲ承諾セサルキハ兩院共政府ノ進言
シタル按文ニ基キ之ニ付テ必ス可否ノ投票ヲ爲スヘシ

第二十四條 上院下院ハ何レノ事件ヲモ差示シ右ニ付テ政府ヨリ已
レニ法律ヲ進言スヘキコトヲ請求スルヲ得ヘシ且其法律ニ記載スヘ

キト思フ處ノコトニ付テ自ラ文面ヲ記作スルヲ得ヘシ但右ハ上院下
院ノ中孰レノ院ニモ爲スヲ得ヘキコトナリ

第二十五條 凡上院下院ノ中一院ハ法律議按ノ文面ヲ承諾セシ上之
ヲ他院ヘ送ルヘシ如シ此院右文面ヲ承諾スルニ於テハ之ヲ直ニ皇
帝ニ呈スヘシ

第二十六條 凡議院ノ決定ヲ請フ處ノ法律議按ニ付テ委員或ハ諸卿
ノ爲シタル届書并ニ上院下院ニ呈スル所ノ勘定書ノ外孰レノ論書
モ議院ニテ讀聞スヘカラス

第四十條 諸卿ハ下院之ヲ訴フルヲ得且上院之ヲ裁判ス

第四十一條 凡卿或ハ海陸軍ノ總指令官國外ノ安寧或ハ國名ニ害ヲ
蒙ラシメタルニ付テ下院之ヲ訴フルヲ得ヘシ且上院之ヲ裁判ス

第四十二條 前條ノ場合ニ於テ其罪ノ性質ヲ定メ又ハ其之ニ準擬スヘキ刑ヲ定ムルニ上院ノ權ハ無限ナリ

第四十三條 下院ハ卿ヲ訴ヘントスルノ進言ノ評議ヲナスヘキヤ否ヤノコトニ付テ公告ヲナス

第四十四條 右公告ハ搜圖ヲ以テ撰擧シタル六十名ノ委員右訴ノコトニ付テ届書ヲ出セシ上ナラサレハ之ヲ爲ス能ハス但右委員ハ其設立シタル日ヨリ十日以上ノミ此届書ヲ出スヘシ

第四十五條 下院ニ於テ右訴ヲ評議スヘキコトヲ公告セシ上ハ其卿ヲ召シ其一件ノ始末ニ付テ卿ニ問フヲ得ヘシト然ル處委員ノ届書ヲ落手セシ日ヨリ十日後ニ非レハ其卿ヲ召スヘカラス

第四十六條 前條ニ記シタル場合ニ非レハ上院下院ニ於テ省ノ總理

ヲ任シタル卿ヲ召スヘカラス

第四十七條 下院ハ卿一人ニ對シテ爲シタル訴ヲ評議スヘキコトヲ公告セシハ搜圖ヲ以テ新ナル委員ヲ設立スヘシ右委員ハ其卿ヲ訴フヘキヤ否ノコトニ付テ届書ヲ出スヘシ然ル處此委員ハ其設立ノ日ヨリ十日以後ノミ己ノ届書ヲ出スヘシ

第四十八條 凡テ卿ヲ訴フ可キヲ公告スルコトハ右届書ヲ讀聞セ且其寫ヲ代議者ヘ配賦セシ日ヨリ十日以上ナラサレハ之ヲ爲スヲ得ス

第四十九條 訴ノ公告ヲ爲セシ上ハ下院議員ノ中ヨリ撰擧シタル名代人五人ヲ任シ之ヲシテ上院ニ原告人トシテ此訴ヲ爲サシムヘシ

第五十條 千七百九十九年十二月十三日附ノ建國法第八篇第七十五條即チ「國議院ノ決定ニ依ラサレハ政府ノ官員ヲ訴フヘカラス」ト

ノ文ヲ記シタル條ハ格別ナル法律ヲ設ケ之ヲ變改スヘシ

○佛蘭西一千八百三十年

第二十七條 上院下院ヲ論セス其會席ニ來聽ヲ許スヘシ

第四十二條 國王ハ毎年必ス兩院ヲ召集ス又兩院集會ノ時間ヲ延ハスヲ得ヘキト雖モ兩院ノ中下院ノミ散解スルヲ得ヘシ且散解セシ日ヨリ三ヶ月間ニ必ス新ノ下院ヲ召集スヘシ

第四十四條 下院ノ集會時間中重罪ノ訴ヲ以テ議員ヲ原告シ之ヲ捕フヘカラス然モ現行犯罪ノ場合ニ於テ下院ノ承諾ヲ受シ上之ヲ原告スルヲ得ヘシ

第四十五條 上院下院ヲ問ハス人民ハ議院ニ願ヲ出サントスルモハ

必ス書面ノ体裁ヲ用ヒサルヲ得ス願人議院ヘ自ラ願書ヲ持參スルヲハ法律ニ於テ禁スルナリ

第四十六條 諸卿ハ上院或ハ下院ノ議員トナルヲ得ヘシ又孰レノ院ニモ入ルヲ得ヘキ者ニシテ如シ發言ヲ爲サントスル毎ニ必ス之ヲ聞クヘシ

第四十七條 下院ニ於テ諸卿ヲ原告シ之ヲ上院ニ送ルヲ得ヘシト雖モ諸卿ヲ裁判スルヲハ上院ノミ之ヲ爲スヲ得ヘシ

○佛蘭西一千八百四十八年

第六十九條 諸卿ハ民選議院ニ入ルヲ得ヘキ者ニシテ發言ノ願ヒヲ爲ス毎ニ必ス其陳述ヲ聽ヘシ尙諸卿ハ己ノ論辨ヲ輔佐スル爲メ共

和政治統領ヨリ撰擧スヘキ政府ノ各代人數人ノ助ケヲ受クルヲ得
ヘシ

○佛蘭西 一千八百五十二年

第九十二條 元老院及民選議院ノ番兵ハ陸軍卿ノ命ヲ受クル者ニシ
テ陸軍卿其番兵ニ管スルヲ元老院ノ議長及民選議院ノ議長トニ
謀ルヘシ○集會ノ時間中其兩院ノ議長議事堂ニ赴ク毎ニ敬禮兵ハ
之カ爲メ禮ヲ行フヘシ

○普魯西

第六十條 諸執政并ニ執政ノ代理タル諸官ハ兩院ニ參入ノ權ヲ有シ

而シテ發議ヲ願フコアル毎ニ議院必ス之ヲ聞クヘシ議院其參入及發議ヲ拒ムト
ヲ得 ○各議院ハ諸執政ノ出頭ヲ請求スルコトヲ得議會開クハ諸執
出頭ヲ求ムルコトヲ得 ○諸執政ハ其議員タルルコトヲ除クノ外公評權ヲ
有セス投票若クハ起坐若クハ舉手シテ可否ヲ評スルノ權今譯ノ公評ノ權トナス

第六十一條 各議院ハ諸執政ノ建國法ヲ犯シ及賂賄及謀反ノ罪ヲ論
告スルコトヲ得 ○大法院其事ヲ裁決スヘシ ○別法此外ニ諸執政ノ任
責事件及其糾治刑律ヲ定ムヘシ糾治ノ方法ト科スヘキノ刑律トモ
氏ニ據ルニ此條ノ所謂別法
諸執政ノ罪件糾治刑律ヲ定ムヘシ云者現ニ猶未定ニ屬シ建國法
ノ元則未タ適用スルニ至ラス是立憲政體ノ基礎最要ナル執政ノ任
責法普魯西國ニ行ハルコト未ダ信スヘカラザルナリ然ルニ此事實
際施行セスト雖モ亦法ニ條章アルヲ以テ執政ノ專横ヲ防制スルニ
足ル

第六十二條 立法權ハ王ト兩院ト共同シテ之ヲ行フ王ト兩院ノ諧同

ハ新法ヲ發スル毎ニ欠クヘカラズトス 議案王ニ出ル者ハ兩院ノ承
 王ノ制可ヲ要ス若シ互ニ異意アルハ以テ法ヲ成スニ足ラズ國王
 制可ノ權各王國皆同シ但制可ヲ拒ムニ罷議ト格議ノ別アリ此條即
 チ罷議法ヲ用フ格議法トハ議院議決シテ國王制可ヲ拒ミ議院更ニ
 再議シテ決定スルハ仍ホ可ヲ得スト雖此亦法章ヲ成スコヲ得此
 條ノ所謂欠クヘカ ○國計ニ係リタル法章 國債及官地ノ賣ノ議草ハ
 ラサル者ト異ナリ
 初メニ下院ニ付シ議ヲ取ルベシ 通常事件ハ立法權ニ於テ國王及兩
 院平等ニ三分ノ勢ヲ有ス但國計ニ
 至テハ下院ハ上院ニ先チ特ニ重權 ○上院ハ之ヲ樂可否スベシ 議事
 ヲ握ルハ人民ハ國計ノ本ナレハナリ
 可否ト條可否トノ別アリ樂可否トハ唯其大意ヲ論シ樂シテ其全法
 ヲ可否スルヲ云條可否トハ己ニ其大意ヲ論シ又每條逐論シテ之ヲ
 修改スルヲ得ルヲ云樂可否ハ修改ノ權ナ
 シ故ニ下院ノ條可否スル者ニ讓ルコト一等

第六十三條 若シ世治ヲ保スル爲ニ或ハ不意ノ凶災保郵ヲ要ノ爲ニ
 緊急ノ處置ヲ爲スヲ要シ而シテ兩院遇散シタルハ在ルハ執政
 總員ノ任責ヲ以テ下附シタル令條國王ノ其建國法ト相反カサル者

ハ法章ノ力ヲ有スルヲ得權ニ建國法ト相反カサル者ト同ク視世
 兩院ノ次會ニ於テ其令條ニ必ス兩院ノ同議ヲ取ルヘシ

第六十四條 國王并ニ各院ハ法ヲ起議スル 起草發議ノ權ヲ有ス 其
 議ノ權ヲ有セス諸執政ト雖其議按 兩院ノ一若クハ國王ヨリ斥ケ
 ヲ草スル者ハ又王ノ名ヲ以テ發議ス
 タル可トセザ 法章按ハ其同會ニ於テ再進スルヲ得ス 次會ヲ待ツ
 メテ再ヒ斥ケラル
 ヲ者例亦之ニ同シ

第七十五條 任期三年己ニ終ルノ後新ニ議會ヲ撰フ解散ノ時亦同シ
 任期未タ終ラスシテ王命ヲ以 ○並ニ前任ノ議員再ヒ後任ノ撰ニ當
 テ解散シタルハモ亦新ニ撰フ
 ルヲ得

第七十六條 兩院ハ上年十一月ノ初ヨリ次年正月ノ半ニ至ル迄ノ間
 ニ國王ヨリ每歲徵聚ス其外ニ事アリテ徵聚ヲ要スルニモ亦同シク

國王ヨリス戒嚴ヲ布告スルノ類ハ特ニ徵聚ヲ要ス

第七十七條 兩院ノ開閉ハ國王親ラ宣シ或ハ特ニ任シタル一ノ執政ニ由テ之ヲ宣スルコト兩院合會ニ於テス始ヲ開トシ終ヲ閉トス○兩院ノ徵、開延、閉ハ皆同時ニ於テス○若シ唯其一院ヲ解散シタルハ不時定一院ハ面ヨリ延長シテ期ニ屆ルコトヲ得

第七十八條 各院ハ自ラ其議員ノ權任ヲ監查シ撰任狀ヲ檢査スル等其撰舉ニ係リタル爭訟ヲ決ス○各院ハ其事務ノ規則及其紀律ヲ定ム又其議長副議長書記官ヲ撰フ各院○官吏タル者兩院ニ入ル爲ニ議員タル爲ニ職ヲ辭スルコトヲ要セス本官ヲ以テ議員タルコトヲ得執政ニ至テモ亦同シ○若シ代議士タル者新ニ行政部ノ一官ヲ受ケル官ヲ云權任若クハ政府ノ官使ニ入り權任ヲサル官若クハ俸給増加ヲ得テ宅ノ使用ニ轉スルハ舊官吏タル者新ニ俸ヲ増

シテ官院中ノ位ヲ失ヒ及公評ノ權ヲ失フ政府ノ利害ヲ曉ハテ而シテ新撰ニ依ルニ非レハ代議士ノ任ニ復スルコトヲ得ス○何人モ兩院ノ議員ヲ兼ヌルコトヲ得ズ

第七十九條 兩院ノ會ハ公行トス衆人公聽ヲ許ス○議長若クハ議員十人ノ請求ニ依ルハ各院秘會ヲ行フ公聽ヲ禁ス其請求ノ可否ヲ議スルモ亦秘會ヲ以テス

第八十條 各院若シ法ニ定タル所ノ過半衆出頭セサルハ議決ヲ舉ルコトヲ得ス○各院ハ全務ヲ以テ議決ヲ舉ク但民選法ニ定タル特例ハ限ニアラス議事法全勝アリ優勝アリ全勝ハ全數ノ半ヨリ多キヲ得ルヲ云優勝ハ僅ニ彼ハ此ヨリ多キヲ云民選法ノ特例トハ議長等ヲ撰フニ全勝ヲ得ザルハ再議ニ優ヲ用フルヲ云フ

第八十一條 各院ハ自ラ國王ニ奏疏スルノ權ヲ有ス○何人モ兩院ニ

向テ自ラ上言書ヲ付スルヲ得ス
上言書ヲ議院ニ進ムルニハ唯之
中ニ入テ本院ニ付スルコ
ヲ得ズ以テ喧ヲ避ルナリ
○各院ハ受取ル所ノ上言書ヲ各執政ニ送
付シ書中載スル所ノ訴ニ付キ執政ノ辨説ヲ求ムルヲ得
問難

第八十二條 各院ハ事犯ノ追糾ニ付キ檢察ヲ行フ爲ニ理事員ヲ命ス
ルノ權ヲ有ス
檢察ノ權○但兩院ノ追糾ハ大臣ノ犯罪ニ限ル

第八十三條 兩院ノ議員ハ全國人民ノ各代人トス○議員ハ其自由ナル
ル心知ニ從テ公評シ約束及訓條ニ拘束セラレ、
ナシ
舊法ニ於テ
出ル代議士ハ其各地方ノ代人トシテ各地方人民ヨリ委任シタル約
束訓條ニ拘束シ自己ノ心ヲ以テ隨意ニ發議可否スルヲ能ハズ今改
メテ凡議員全國ノ代人トシ各地方ニ拘ラズ
故ニ隨意ニ發議シ地方人民ノ求メニ拘ラズ

第八十四條 議員ハ公評ノ爲及院中ニ於テ發議シタル意見ノ爲ニ之
ヲ審糾スルヲ得ズ但院則ニ循ヒ院中ノ處分ハ此例ニアラス
院則ハ各

院各治シ議員ヲ拿○凡議員ハ開會間本院ノ許可ナクシテ刑法ニ觸
レタル事犯ノ爲ニ之ヲ糾治勾捕スルヲ得ス但本日或ハ翌日發見
サレタル現行犯ハ此例ニアラス
議員ノ特權○此法ハ各
國共ニ英ニ倣ヘルナリ○其負債ノ
爲ニ勾留スルニモ民法ニ負債ヲ催
亦同ク本院ノ許可ヲ要ス○本院
ノ願アルハ開會間民刑ヲ論セス凡糾治勾留皆之ヲ解放ス
開會ヨ
事案ヲ云開會中
現行犯モ亦同シ

○澳地利

第二篇第一條 帝國議會ハ澳地利帝國ヲ代理スル者分テ上院下院ノ
二局トス○何人モ上下院ノ議員ニ兼任スルヲ得ス

第九條 皇帝ハ會期ノ間議官中ヨリ上院ノ議長及副議長ヲ任命ス下

院ハ自ラ代議士員中ヨリ其議長ト副議長トヲ推撰ス又兩院ハ各自
其他ノ吏員書記官以下ノ官吏ヲ云フヲ撰擧ス

第十條 帝國議會ハ成ルベクタケ毎歲冬月ニ皇帝之ヲ召集ス

第十一條 帝國議會ノ權任ハ廣ク其代理スル諸王國及部屬ニ共通ノ
權義公益ニ關スル法制ノ諸事但該王國部屬ト「オングリー」國所屬
ノ地トニ關スル事件ハ此限ニアラス○左ニ掲クル者ヲ以テ帝國議
會ノ權任トナス

第一 貿易ノ條約及帝國ノ全部若クハ局部ノ責任ヲ生シ又國民ニ
課務ヲ命シ又帝國議會ノ代理スル王國及部屬ノ疆域ノ變更ヲ致
スヘキ國事條約ノ檢査及決可

第二 凡テ兵役執行ノ方法及其規則ト期限トニ關スル事件就中每

歲召募スヘキ徵兵員ノ定限及豫備馬匹ノ賦課兵士ノ糧食屯營ノ
總則ニ關スル事件

第三 政府ノ歲計豫算表ノ規則及諸租稅賦課ノ每歲決議政府ノ決
算表并ニ會計管理成跡ノ檢査新公債證券ノ發出政府舊債ノ變費
官地ノ賣易貸與專賣并ニ特權ノ法律總テ帝國議會ノ代理スル全
王國部屬ニ通スル會計諸般ノ事務

第四 金銀銅貨及銀行證券ノ發出ニ關スル事務ノ規則稅關貿易電
線驛遞鐵道航運ノ事件其他帝國通運ノ方法

第五 證券銀行工業ノ特準度量衡製造ノ模型記印保護ノ法律

第六 醫藥ノ法律及傳染病家畜疫疾防護ノ法律

第七 國民權即チ公權及歸化ノ法律外國人取締法路券及人別點檢ノ法

律

七百十四

第八 各法教ノ關係集會結社ノ權著刻才藝上ノ私有權保護ノ法律
公立小學校及中學校ニ於テ教育原旨ノ例規大學費ノ法律

第九 懲治罪裁判所違警罪裁判所及民法裁判所ノ法律但州ノ布令
及此憲法ニ依リ州會ノ權任トスル事務ノ法律ハ此限ニ在ラス○
商法兌換法海上法礦坑及藩建地ノ法律

第十 司法官及行政官構制ノ基法

第十一 國民ノ通權大法院司法權行政權ニ關スル諸憲法ヲ執行ス
ルニ須要ナル法律

第十二 各部相互ノ義務及關係ニ涉ル總般ノ法律

第十三 邦ノ各所屬ノ諸部ト共通ナリト認メタル事務ヲ處

分スルノ規程ニ關スル法律

第十二條 此憲法ニ依リ帝國議會ニ明カニ附與セサル立法ノ諸件ハ
皆該議會ノ代理スル王國及部屬ニ設クル州會ノ權任ニ入ル故ニ憲
法ニ依準シ該州會ニ於テ之ヲ規定ス然レ州會ニ於テ制定スヘキ某
件ヲ帝國議會ニ於テ論議裁定スヘシト決スレハ其時ニ限リ之ヲ帝
國議會ノ權任ニ置クヘシ

第十三條 法律議按ハ政府ヨリ帝國議會ニ送附ス然レ帝國議會モ亦
其權內事務ノ法律ヲ起議スルノ權ヲ有ス○何レノ場合ニ於テモ法
律ニ眞確不易ノ力ヲ與フルニハ上下兩院ノ諧同ト皇帝ノ制可ヲ必
要トナス○會計法ニ於テハ省察ノ金額ニ關シ點徵法ニ於テハ募兵
ノ員數ニ關シ論議數回ニ及テ兩院ノ說相協ハサルモハ募兵若クハ

七百十五

金額ノ最少數ヲ以テ諧同ノ定數ト見做スヘシ

第十四條 憲法ニ依リ帝國議會ノ裁定スヘキ事件ヲ緊急ニ處分セサルヲ得サルニ臨ミ議會ノ會開會セサルハ全執政官其責ニ任シ詔書ヲ下シテ之ヲ處決スルヲ得然レ之カタメニ憲法ヲ廢棄シ國庫ニ永久ノ責任ヲ生シ及官地ヲ賣付スルニ至ルヲ得ス但全執政官該詔書ノ條章ニ手署シ此憲法ノ例規ニ定ムル制限ヲ踰越スルヲナキニ於テハ假ニ法律ノ力ヲ有スル者トナス○右詔書ハ公布スルノ後始テ開キタル帝國議會ノ會議ニ政府ヨリ之ヲ示スコヲ怠リ及下院ノ議士召集ノ日ヨリ四週日間ノ後ニ至リ猶之ヲ該院ニ移ササルハ又兩院ノ中ニテ之ヲ承允セサルハ其法律タルノ力ヲ失フ○全執政官ハ右詔書ノ假有スル法律ノ力ヲ失フタル日ヨリ即時ニ廢棄

ノ責ニ任ス

第十五條 凡帝國議會ノ決裁ヲ眞確不易ノ者トナスニハ下院ノ議士百名上院ノ議官四十名出席シ及兩院ニ於テ各公評人ノ過半數ヲ得ルヲ必要トス○凡帝國議會ノ代理スル王國及部屬ノ人民ノ通權大法院ノ構制司法權太政權並ニ行政權ヲ職掌ニ關スル憲法ノ改正ヲ眞確不易トナスニハ少クモ公評ノ多數全議員三分ノ二以上ニ至ルヲ必要トス

第十六條 下院ノ議士ハ其撰擧者ヨリ委任訓狀ヲ受クヘカラス○帝國議會ノ議員ハ決シテ其職務ヲ執行スルタメニ行フタル公評ノ責ニ任セス獨リ其隸屬スル院ニ對シ職務ヲ執行スルタメ發議スルノ責ニ任スルノミ○凡帝國議會ノ議員ハ其會議ノ際ニ於テ現行犯罪

ノ場合ヲ除キ本人ノ隸屬スル院ノ承允ヲ得ルコトナク司法上ノ手續ヲ以テ之ヲ拿捕シ若クハ糾治スルコトヲ得ス○現行犯罪ノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ即時ニ議員ヲ拿捕セシコトヲ該院ノ議長ニ通知スヘシ○議院ヨリ請求スル所アラハ會議ノ時間犯罪議員ノ禁獄ヲ停メ糾治ヲ廢スヘシ議院ハ會期間ノ外ニ議員中ノ者ヲ拿捕シ若クハ糾治スルニ當リ亦同上ノ權ヲ有ス

第十七條 凡帝國議會ノ議員ハ自身ニ公評スヘシ

第十九條 帝國議會ノ延會及下院ノ散會ヲ決定スルノ權ハ皇帝ニ屬ス○散會ノ場合ニ於テハ第七條ニ準シ新ニ議員ノ撰舉ヲ行フ

第二十條 執政及太政府各務ノ長官ハ帝國議會ノ諸議ニ參與シ及自ラ起議シ又議員ニ附シテ起議スルコトヲ得○上下各院ハ執政ノ出席

ヲ請求スルコトヲ得○執政請求スレハ常ニ發議スルコトヲ得然レ其
上院若クハ下院ノ議員タルキニ非レハ公評ニ參スルノ權ヲ有セ
ス

第二十一條 帝國議會ノ各院ハ執政ニ各其職掌トスル事務ヲ詰問シ
政府ノ措置ヲ檢査シ上言書ノ説明ヲ執政ニ求メ執政ヲシテ需要ナ
ル報知ヲ致サシムベキタメノ委員ヲ命シアレクサン通牒及判決ノ規式ヲ以テ
該委員ヨリ其意見ヲ發スルノ權ヲ有ス

第二十三條 上下兩院ノ會議ハ公行トス然レ兩院ハ議長若クハ少ク
レ議員十名ノ請求スルニ當リ聽衆ヲ退クルノ後該院ニ於テ之ヲ可
ト決スルキハ特ニ祕密會議ヲ開クノ權ヲ有ス

第二十四條 院內事務施行ノ細則上下兩院相互ノ關係及其他官省ノ

關係ハ特別ノ條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第三篇第一條 左ニ擧クル條件ヲ以テ帝國議會ノ代理スル王國部屬及オングリ^國名所屬ノ國ニ普通ナル者ト公告ス

第一 外國事務但外國ニ派遣スル交際務及貿易務ノ使節ノ事及國際條約ノ件皆之ニ入ル此等ノ條約ニ關シ憲法ヲ以テ須要ト定タル決可ノ權ハ帝國兩部ノ議院^{帝國議會及オングリ國國會ヲ云フ}ニ屬ス

第二 軍務但帝國海軍ノ事務モ亦之ニ入ル然レ募兵ノ員數ヲ定ムル法律兵役ヲ踐行スル方法ニ關スル法律軍兵ノ移轉及管理ニ關スル條則及軍兵ノ關係權義ニ關スル規則ハ此限ニ在ラス

第三 通國ノ支費就中歲出入豫算表ノ制定及決算表ノ檢査等ノ會計事務

第六條 帝國兩部ノ議院ニ屬スル立法權ハ通國事務ヲ處分スルカタメ該議院ヨリ撰派スル代理官ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第七條 帝國議會ノ代理官ハ其員數六十名トス但其三分ノ一ハ上院ヨリ三分ノ二ハ下院ヨリ撰用ス

第八條 上院ハ其議官中ヨリ公評ノ過半數ヲ以テ代理官ニ任スベキ者二十名ヲ撰擧ス下院ヨリ出スヘキ代理官四十名ハ各州會ノ議員左ノ表ニ準シテ之ヲ撰擧ス但各州會ノ議員中ヨリモ又下院ノ議員中ヨリモ均ク之ヲ撰任スルコトヲ得○公評ノ過半數ヲ以テ左ニ掲クル員數ノ代理官ヲ撰擧スヘシ

- 伯閔王國 十員
- 搭馬王國 一員

- 牙里西及邏多米里國哥拉可維公國 七員
- 安斯河東ノ澳地利部 三員
- 安斯河西ノ澳地利部 二員
- 薩耳不爾厄侯國 一員
- 士的里亞侯國 二員
- 加郎西侯國 一員
- 布哥維納侯國 一員
- 默隣部 五員
- 上下細勒西亞侯國 一員
- 的邏爾伯國 二員
- 窩拉爾堡 一員

- 壹士的里亞部 一員
- 廓里西及略拉日斯加伯國 一員
- 得利益府及其屬地 一員

計四十員ナリ

第九條 帝國議會ノ兩院ハ同一ノ方法ニ由リ上院ヨリ十員下院ヨリ二十員ノ代理人補ヲ撰擧スヘシ○下院ニ於テ撰ムヘキ代理人補ノ員數ハ正代理人一員ヨリ三員マテノ數ニ對シ補官一員其四員以上ニ補官二員ノ比例ヲ以テ之ヲ定ム○補官ノ撰擧ハ各別ニ之ヲ行フヘシ連名ノ投箋ヲ以テ撰擧セサルヲ云フ

第十條 正補代理人ハ帝國議會ニ於テ每歲更撰スヘシ其更撰スルノ日ニ至ルマテ前任ノ正補代理人ハ其職掌ヲ有スヘシ又代理人ヲ退

キタル者ハ再ヒ其撰ニ當ルヲ得ス

第十一條 代理官ハ每歲皇帝之ヲ召集ス其會集スル場所ハ皇帝之ヲ定ム

第十二條 帝國議會ノ代理官ハ其僚員中ヨリ議長副議長ヲ撰擧シ及書記官其他ノ官吏ヲ任命ス

第十三條 代理官ノ職掌ハ徧ク通國事務ニ及フ其他ノ事務ハ代理官ノ干預スヘキ者ニ非ス

第十四條 政府ノ起議ハ通國事務執政官ヨリ各別ニ兩部ノ各代理官ニ移送ス○兩部ノ各代理官ハ其權任内ノ事務ヲ起議スルノ權ヲ有ス

第十五條 代理官權任内ノ事務ニ關スル法律ハ總テ兩部代理官ノ諧

合ヲ須要トス若シ其相諧合セサルキハ兩代理官ノ總會議ニ於テ之ヲ決定ス但何レノ場合ニ於テモ此決定ノ制可ヲ皇帝ニ請フ

第十六條 通國事務執政官ヲ論告スルノ權ハ代理官ニ屬ス○通國事務ニ關シ現今存置スル憲法ヲ犯スニ當リ兩部ノ代理官ハ通國事務執政官又該執政官中ノ一員ヲ効告スルタメ他ノ代理官ニ通照スヘキ起議ヲ爲スヲ得○効告ハ兩部ノ代理官各別ニ議決シ又兩代理官ノ總會議ニ於テ之ヲ議決スルヲ以テ適法ノ公告トス

第十七條 各代理官ハ其同僚ヲ除キ凡テ其代理スル帝國ノ兩部ニ居住シテ法律ニ明カナル不羈ノ國民中ヨリ二十四員ノ判司ヲ推擧ス但他ノ代理官ハ其中十二員ノ任命ヲ拒ムヲ得ヘシ○被告人一名タリモ又ハ數名タリモ共ニ推擧セラレタル判司中ノ十二員ヲ拒ム

ノ權ヲ有ス然レ之ヲ兩部代理官ノ推舉スル總員中ニ平均スルヲ要ス○登撰ヲ得タル判司ヲ以テ通國事務執政官ノ効告ヲ裁判スル法院ヲ構制ス

第十八條 通國事務執政官ノ効告訴訟順序裁判ノ細目ハ該執政官ノ責任ニ關スル別法ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第十九條 兩部ノ代理官ハ各別ニ會集シテ施爲論議決定ス此通則ニ循ハサル特例ハ第三十一條ニ掲ク

第二十條 決議ヲ確的ノ者トナスニハ少クモ代理官三十員ト議長ト出席シ且起議ニ向ヒ出席シタル議員ノ公評ノ過半數ヲ得ルヲ要ス

第二十一條 帝國議會ノ正補代理官ハ其撰舉者ヨリ委任訓狀ヲ受ク

ハカラス

第二十二條 帝國議會ノ代理官ハ親ラ其權ヲ受用スヘシ何レノ時機ニ於テ代理官補ノ之ニ代ルヘキヤハ第二十五條ニ定ム

第二十三條 帝國議會ノ代理官ハ帝國議會ノ憲法第十六條ニ依リ帝國議會ノ議官トシテ有スル所ノ人身不侵及無任責ノ權ヲ享有ス右ニ掲クル憲法ノ成文ニ依リ議士ニ對シ下院ニ與ヘタル諸權理現行除クノ外下院ノ承認ナクシテ議士ヲ拿捕糾治スルヲ能ハサル權等ヲ云フハ帝國議會閉會ノ際代理官ニ屬ス

第二十四條 帝國議會ノ議員ノ列ヲ去ル者ハ獨リ其故ヲ以テ亦代理官ヲ去ル

第二十五條 正補代理官ノ員缺クルモハ新ニ其撰舉ニ從事ス○帝國

議會ノ方ニ開會セサルハ代理官補ヲシテ本官ノ欠員ニ代ラシム

第二十六條 下院ノ解散スル場合ニ於テハ代理官ノ權任モ亦均ク廢

ス○新置ノ帝國議會ハ亦新ニ代理官ヲ撰擧ス

第二十七條 代理官ハ其職務終ルノ後皇帝ノ許允ヲ以テ議長其會ヲ閉ツヘシ

第二十八條 通國事務執政官ハ凡テ代理官ノ評議ニ參シ親ラ其意見

ヲ起議シ又代理官ニ附シテ之ヲ起議セシムルヲ得又該執政官發言

ヲ求ムルハ常ニ必ス其議ヲ聽クヘシ○代理官ハ通國事務執政官

若クハ其一員ニ詰問書ヲ送り之カ答辨説明ヲ要求シ及執政官ヲシ

テ須要ナル報告ヲ致サシムヘキ檢察委員ヲ命スルノ權ヲ有ス

第二十九條 代理官ノ會議ハ公行トス然レ聽衆ノ在ラサル所ニ於テ

評議ノ後可ト決スルハ議長若クハ議官五員以上ノ請ニ應シ會議

公行ヲ置閣スルコトヲ得然レ議事ノ決定ハ公行會議ニ於テスベシ

第三十條 兩部ノ代理官ハ其決定及決定シタル理由ヲ互ニ相通照ス

○右通照ハ帝國議會ヨリハ獨乙語匈牙利國會ヨリハ匈牙利語ニテ

記載シタル文書ヲ以テス且兩議會ヨリ互ニ他ノ議會ニ通用スル國

語ヲ以テ記載シタル公正ノ譯文ヲ添フ

第三十一條 兩部ノ各代理官ハ兩部合議ノ公評ニ因リ決ヲ擧クルコト

ヲ請求スルノ權ヲ有ス但相往復スルコト三回ニ及テ其効ナカリシ場

合ニ於テ此事ヲ起議スルハ他ノ代理官之ヲ斥クルコトヲ得ス○兩

部ノ議長ハ兩部ノ代理官合議ノ決ヲ擧クヘキ總會議ノ場所ト時期

トヲ定ムヘシ

第三十二條 總會議ニ於テ議長ノ任ハ更兩部代理官ノ議長ニ屬ス○
抽籤ノ法ヲ以テ兩議長ノ中何レカ最先ニ議長ノ職ニ任スヘキヤヲ
定ムヘシ第二次以下ノ會議ニ於テハ凡テ前會ニ議長ノ職ヲ行ハサ
ル代理官ノ議長ヲ以テ長官ニ充ツヘシ

第三十三條 總會議ニ因テ決定スル所ノ者ヲシテ確的トナスニハ少
クモ兩部代理官ノ僚員各三分ノ二出席スルヲ必要トス但決定ハ
公評ノ過半数ヲ以テス○會議ニ出席シタル甲部代理官ノ員數乙部
代理官ヨリ多キモハ各代理官公評人員ノ平等ヲ得ルカタメ必要ト
スル所ニ循ヒ出席スル議員ノ剩數ナル代理官ニ向ヒ公評ノ禁ヲ行
フヘシ但抽籤ノ法ヲ以テ公評ヲ避クヘキ議員ヲ決定スヘシ

第三十四條 兩代理官ノ總會議ハ公行トス其調書ハ獨乙匈牙利ノ兩

國語ヲ以テ兩部ノ書記官之ヲ記載シ且共ニ照查ス

第三十五條 帝國議會ノ代理官其職事ヲ舉行スル細則ハ該代理官自
ラ條例ヲ制シテ之ヲ決定スベシ

第三十六條 通國事務ニ非スト雖モ通國事務ノ元旨ニ準シテ處分ス
ヘキ事件第二條參看ハ左ニ掲クル手續キヲ用テ兩部ノ諧合ヲ得ルナリ

第一 責任ノ執政官法按ヲ整制シテ各別ニ帝國兩部ノ議院ニ送移
ス兩議院其決ヲ舉クルノ後皇帝之ヲ制可ス

第二 兩部ノ議院ニ於テ各平等人員ノ委員ヲ撰舉シ之ヲシテ兩部
ノ執政官ノ起議ヲ聽キテ法按ヲ草セシム而シテ後此法按ヲ兩部
ノ各執政官ヨリ兩部ノ各議院ニ通照ス該議院ハ定規ニ循フテ之
ヲ論議シ決ヲ舉クルニ及ンテ皇帝ノ制可ヲ請フ

通國事務ニ於ル支費ノ賦課ニ關シ兩部議院ノ諧合ヲ定ムルニハ特ニ右第二則ヲ守ルベシ

○米利堅

第一條第一節 左ニ掲クル議政ノ權ハ都テ合衆國上下二院ニ皈スヘシ

第八節

上下二院ノ議員ヲ撰フノ法并ニ時處ハ各州ノ議政官州ノ小

指ニ依テ定ムヘシト雖上院議員撰擧ノ地ヲ除クノ外大議院

ニ反シヨリ令ヲ下シテ其規則ヲ立テ或ハ之ヲ改ムヘシ議院

第九節

議員ハ少クモ一年ニ一會シ其集會ハ更ニ令ヲ下シテ日ヲ定ムルニアラサレハ常ニ十二月初月曜日ニ始ムヘシ

第十節一 二院各其議員ノ撰擧再撰并ニ其撰ニ違フヘキ規則等ヲ決定スヘク二院ノ議員過半集會スルニ非レハ其事務ヲ爲スヘカラス

若シ其人員足ラサルモハ欠席スヘカラサルノ法令ヲ立テ當ルニ罰

金ヲ以テシ其員滿ル日マテ延會スヘシ

第十節二 二院各其議員ノ行跡ヲ正シ暴狀ヲ罰シ議員三分ノ二協合スレハ其員ヲ放逐スヘシ

第十節三 二院各其施行スル所ヲ記載シ密事ヲ除クノ外常ニ公布スヘシ又在席議員五分ノ一望ムモノアレハ兩院議事ノ可否ヲ其書ニ記スヘシ

第十節四 兩院ノ合議ニアラサレハ三日ノ外閉院スル能ワス又兩院正會スヘキ地ニ非レハ妄リニ其處ヲ移スヘカラス

第十一節一 上下ノ議員其勞ニ報酬ヲ受ケ之ヲ合衆國ノ會計局ヨリ
出スヘシ而シテ反ヲ謀リ人ヲ殺シ騷擾ヲ醸シ喧嘩ヲ起ス等惣テ法
度ニ背クノ罪ニアラサレハ會議中及其往返ニ於テ議員ヲ捕縛スル
コトヲ許サヌ又院中ノ論議敢テ院外ニテ問フコトヲ得ス

第十一節二 兩院ノ議員奉職ノ間別ニ合衆國政府ノ任ヲ奉ケ其カタ
メ報ヲ得或ハ祿ヲ増シ政府ノ列官モ亦之ヲ兼ヌルヲ得ス

第十二節一 收税ノ議按ハ都テ下院ニ起ルト雖_レ他ノ議按ノ如ク上
院ニテ之ヲ可トシ或ハ之ヲ補フノ權アリ

第十二節二 既ニ議按兩院ヲ經テ立法ト成ル前必ス之ヲ合衆國大統
領ニ示シテ其許准ヲ稟クヘシ若シ大統領是トスレハ之ニ調印シ否
サレハ其非トスル所ノ議論ヲ添ヘ之ヲ起ス所ノ院ニ返シ其院ニテ

ハ之ヲ其日誌ニ載セ再ヒ講論シ其三分ノ二尙之ヲ立ルコトヲ是トス
ル_レハ其非トスル所ノ議論ト共ニ之ヲ他ノ院ニ送り同ク再議シ其
院モ亦之ヲ是トスル_レハ其議按終ニ立法ト爲ルヘシ然_レ都テ此
ノ如キ事件ノ_レハ兩院ノ「ヴァー」ト可否ヲ以テ之ヲ決シ其是非スル
所ノ人名亦各院日誌ニ記スヘシ而シテ大統領其議按ヲ受ケ十日ノ
内_レ日曜日_レ之ヲ返サ、レハ調印セシト同ク其議按終ニ立法ト爲ル
ヘシ但議會既ニ閉チ其返ルコトヲ妨ケル_レハ此例ニ非ス

第十二節三 法令ヲ出シ決議或ハ「ヴァー」トヲ取ル等都テ上下兩院ノ
協合ヲ要スヘキ_レ延會_レノ條_レヲ除ク_レ事件ハ必ス之ヲ合衆國大統領ニ示スヘシ
又其立法ト爲ル前ニハ須カラク大統領ノ許准ヲ稟クヘシ或ハ大
統領否トスルモ定則ニ從ヒ再議ノ後兩院三分ノ二尙之ヲ可トセハ

立テ法ト爲スヘシ

第二條第一節二 議政官ノ命ニ從ヒ議院ニ出スヘキ二院議員ノ數ニ
應シテ撰士ヲ撰フヘシト雖モ合衆國ノ官職ヲ奉スル者并ニ上下院
ノ議員ハ都テ其撰擧ニ當ルヘカラス

第一節四 撰士ヲ撰フノ時并ニ其投票ノ日ヲ定ムルハ總テ合衆國中
同一ナルヘシ

第四條第三節一 議院合衆國所屬ノ土地或ハ他ノ財産ヲ賣リ又其事
ニ付緊要ナル法則ヲ立ツヘシ而シテ此憲法中何ノ條タリモ漫ニ之
ヲ牽強シ合衆國或ハ其州所有ノ權ヲ妨害スヘカラス

○白耳義

第三十二條 兩院ノ議員ハ全國民ノ總代タリ獨リ議員ヲ撰派スルノ
一州若クハ一區ノ代人タルニ止マラス舊法議員ハ一州一區ノ代人
トシテ必ス其所出ノ地方人
民ノ求望ヲ達スル
ニ任ス今之ヲ改ム

第三十三條 兩院ノ會ハ公行トス公聽ヲ
許ス然モ各院其議長若クハ議員
十人ノ求望ニ依リ密會ヲ行フ○繼テ全勝法ヲ用ヒ其事件ニ付キ密
會
ヲ以テ議シ
タルノ事件公會ヲ以テ再議スルヲ要スル乎ヲ決ス

第三十四條 各院其議員ノ權任ヲ監查ス委任狀ヲ檢
査スルヲ云而シテ權任事件
ニ付キ起ル所ノ爭訟ヲ裁判ス

第三十五條 一人兼テ兩院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十六條 兩院ノ議員政府ノ俸給セル官職ヲ受ルモ即チ議員ノ
列ヲ失フ而シテ更ニ新撰ニ由ルニ非レハ其位ヲ復スルコトナシ

第三十七條 每會各院其議長及副議長ヲ撰ヒ而シテ事務室ヲ建設ス
議長一員副議長二員書記官四員之ヲ事務室トス

第三十八條 凡議決ヲ舉ルハ議票ノ全勝ヲ以テス但撰舉及推薦事務室諸員及理事員ノ撰舉ハ推薦トハニ係リ兩院ノ院則ニ由テ定ムヘキ者名ヲ進メテ決ヲ國王ニ取ルハ例ニアラスヲ推撰ヲ得ル者兩人以上ニシテ共ニ全勝ヲ得サルハ再議シテ優勝ノ法ヲ用フ○公評平分議ニ非レハ議決ヲ舉ルコトヲ得ス

第三十九條 公評ヲ發スルハ高聲ヲ以テシ或ハ起坐ヲ以テス重キハ可否シ輕キハ或ハ起或ハ坐シテ以テ可否ヲ表ス○法按ノ總議ニ付テハ逐條議決スル者ニ非シテ全按ヲ總議スル者毎ニ呼名法ヲ用ヒ出頭ヲ照查ス高聲ノ公評ヲ以テス○被撰人議長以下ノ撰舉及推薦ハ暗票ヲ用フ無名ノ密票

第四十條 各院糾察ノ權ヲ有ス諸大臣ノ犯事ハ糾察シテ罪ヲ論ス

第四十一條 法章ノ議按ハ逐條公評シタル後ニ非レハ兩院共ニ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第四十二條 兩院ハ逐條ヲ改竄シ及條別シ及已ニ草シタル改竄一院ヨリ改竄ヲ更ニ改竄條別スルノ權ヲ有ス親身進獻

第四十三條 各民親ラ兩院ニ向テ上言書ヲ進ムルコトヲ禁ス親身進獻禁ス但書記局ニ附遞ス○各院ハ受ル所ノ上言書ヲ諸執政ニ送付スルノ權ヲ有

ス○諸執政ハ該院ノ求メアル毎ニ必ス其上言書中載スル所ノ事件ノ上ニ辨明ヲナスヘシ執政答辨ノ務

第四十四條 兩院ノ各議員ハ其職ヲ行フニ付キ發言シタル意見ニ係テ糾治檢索セラル、コトナシ議事自由ノ權

第四十五條 兩院ノ各議員ハ本院ノ許可ヲ經スシテ開會ノ間刑事ノ爲ニ追糾拿捕スルコトヲ得ス但現行犯ハ例ニアラス○同前許可ヲ經ルニ非レハ開會ノ間兩院議員ニ向テ要償ノ勾留民法償ヲ責ヲ行フコトヲ得ス○兩院議員ノ勾留及糾治ニ付キ該院ノ請求アルキハ開會ノ間之ヲ置閣ス開會ノ前勾留糾治スル者ハ開會ニ臨テ之ヲ置閣スルヲ云現行犯ヲ以テ捕ニ就ク者ヲ置閣スル亦同シ

第四十六條 各院ハ院則ニ由テ各其權任ヲ施行スル法式ヲ定ム

第三百三十九條 國會ハ左ノ事件ニ付キ及フ所急迫ヲ期シ各別ノ法章ニ由テ揭定スルノ要用ナルコトヲ宣布ス

- 第一 著刻著刻ノ規則
- 第二 陪審ノ構制
- 第三 會計

第四 州邑ノ構制

- 第五 諸執政及它ノ政部官ノ任責
- 第六 司法ノ構制
- 第七 俸給表ノ修正
- 第八 兼任一人數官ヲ兼任スノ弊ヲ避ル爲ニ適當ノ方法
- 第九 破産及緩催法ノ修正
- 第十 軍兵ノ構制○陸進及老退ノ權利○軍律
- 第十一 諸定法書ノ修正

○瑞典

第五十三款 尋常ノ集會ニ於テハ機務ヲ辨理スルカ爲ニ分課ノ法ヲ

設ケテ掌管スヘシ

政体課 此課ハ政府ノ憲法ヲ改革シ又ハ釐正スルノ建白ヲ爲シ或
其書面ヲ請取り且之ニ其意見ヲ加ヘテ議院ノ顧問ニ供シ或ハ内
閣議事ノ草按ヲ檢校ス

會計課 此課ハ會計局公債局ノ模様及其辦理ノ方法并ニ要務等ヲ
明細ニ檢査シテ議院ニ報告ス

課稅課 此課ハ一切租稅ノ事ヲ掌管ス

銀行課 此課ハ銀行ノ事ヲ管轄シ其模様ヲ吟味シテ之カ教令ヲ設ク
法制課 此課ハ民法刑法及教法ノ改正ニ付議院ヨリ差出ス處ノ議

按ヲ記錄ス

臨時集會ニ於テハ右集會シタル事務ヲ取扱フヘキ課目ノミヲ設ク

ヘシ

第五十四款 若シ國王其職掌ニ於テ秘密ニセサルヘカラサル機務ヲ
商量センカ爲メ議院ニ令シテ特ニ委官ヲ差出サシムルハ議院ヨ
リ右委官タルヘキ人物ヲ撰擧スヘシ然レ此委官ハ國王ノ諮詢スル
機務ニ就キテ其意見ヲ述フルノミニテ之ヲ決定スル權ヲ有セサル
ヘシ若シ國王ヨリ其事ヲ祕スヘキ誓詞ヲ要スルハ委官ハ其命ニ
從ハサルヲ得ス

第五十五款 議院若クハ其一局若クハ其一課國王ノ面前ニ於テ機務
ヲ討論シ決定スヘカラス

第五十六款 國王ヨリ下問スル處ノ按件ヲ取扱ヒ之ヲ決スル手續并
ニ兩局ノ總代ヨリ持出ス處ノ議按ヲ處置スル手續ハ明ニ各代人ノ

撰擧法ニ載スヘシ

第八十九款 凡議院ニ於テ議按ヲ發スルハ其目的トスル處王國ノ經濟ニ關係シタル法律條例ヲ改正及解釋シ又廢革シ或ハ新法ヲ設立スルコト其他國民一般ノ教育ニ關係スルコトヲモ發シテ妨ケナシ然ルト雖此等ノ議按ニ就キテ議院ノ決議スル處ハ唯國王ニ其事ノ可否ヲ奏聞シ或ハ其希望スル處ヲ上言スルニ限ルヘシ國王ハ內閣大臣ノ意見ヲ聽キタル上ニテ王國ノ利害ヲ慮リテ之ヲ裁決スヘシ若シ國王ニ於テ王國ノ治務ニ關係シタル按件ヲ議院ニ下付シ之ト協同シテ其按件ヲ決定セント欲スルハ第八十七款第一章法律ノ事ニ關係シタル手續ニ從フヘシ

第九十款 政府官吏ノ黜陟行政司法ノ斷按議定條例私民或ハ會社ノ

利益法律規例ノ奉行并ニ院局等ノ建立スル等ノ議案ハ之ヲ議院或ハ其二局或ハ專管ノ分課ニ付シテ其熟議檢査ヲ經ルコト總テ政府ノ憲法ニ掲クル所ノ手續ニ從ヒ其文意ニ依據スルヲ要ス

第九十六款 平常集會ノ節ニハ議院ニ於テ法律ニ熟通シ譽望アル人物ヲ撰ンテ議院ノ大檢事職ニ任スヘシ此人物ハ議院ノ訓令ニ基キテ司法官吏ノ法律ヲ執行スルコトヲ監察シ又法院ノ章程ニ從テ其奉職ノ間愛憎偏頗ニ依テ法律ヲ枉ケ或ハ怠惰ニシテ奉職無狀ナル者ヲ糾彈スルコトヲ掌ルヘシ○右大檢事ト雖此奉職無狀ナルニ於テハ總テ現今所行ノ律内ニ在ル官吏公罪ヲ犯スノ條例ヲ以テ之ヲ罰セラルヘシ

第九十七款 議院ノ大檢事ハ其奉職ノ間總テ王室ノ大檢事同様ノ格

式ヲ有シ而シテ之ヲ銓任スルトハ撰擧律中ノ手續ニ據ルヘシ○此大檢事ヲ銓任スル同時ニ於テ更ニ本官同様ノ才望アル人物ヲ撰ミ置キ若シ本官ノ者議院散會ノ后ニ死去スルトアレハ之ヲ以テ本官ヲ補ハシメ若シ本官重病ニテ其職ニ堪ヘス或ハ法律ニ於テ其職ヲ褫カルヘキトハ之ヲ以テ直ニ本官ト爲スヘシ

第九十八款 議院ノ集會中ニ檢事職タル者其官ヲ辭シ或ハ死去スルトアルトハ議院ニ於テ即時ニ前款ノ副職ヲ以テ本職ヲ嗣シムヘシ若シ集會中ニ右副職ノ者其官ヲ辭シ或ハ本官ニ補シ或ハ死去スルトハ其次ノ副職タルヘキ人物ヲ撰擧スルト總テ前款ノ手續ノ如シ若シ休會中前文ノ時宜ニ到ルトアルトハ銀行公債局ノ委官ニ於テ議院同様ニ之ヲ補任スヘキ權アルヘシ

第九十九款

議院ノ大檢事ハ緊要ナリト考フトハ大法院第一等ノ小法院ノ改正官行政局及一切小法院ノ評議裁判所ニ出席スルノ權アリ然レ其意見ヲ述フルトヲ許サス○此職ハ諸法院行政局其他政務關係ノ草按議定等ヲ承知スルノ權アルヘシ概スルニ王室ノ諸官吏ハ總テ其力ヲ假シテ此職ノ命令ノ行届ク様ニスヘシ就中會計局ノ委官ハ其所望ニ應シテ資産追究ノ幫助ヲ爲スヘシ

第一百款

議院平常ノ集會毎ニ其奉職ノ次第ヲ報告書ニ認メテ差出シ其内ニ國中ノ法務ニ係ル政治ノ模様ヲ表明シ現今所行ノ法律條例ノ瑕瑾ヲ指示シ且之ヲ改正スル方法ヲ建白スヘシ

第一百三款

平常ノ集會ニハ撰擧律ニ掲タル條例ニ照シテ三年毎ニ議院ニ於テ委官ヲ命シ大法院ノ官吏克ク其任ニ堪ヘテ重職ヲ續クヘ

キヤヲ監察シ更ニ其内ノ數員ハ故ヲニ罪科ヲ犯シ又過失アル憑徴ヲ得スト雖モ國王ニ代テ憲法ヲ執行スヘキ權ヲ委任スルニ堪ヘサル者無キヤヲ視察スヘシ若シ右委官撰擧律ノ條例ヲ照シテ建言シ其上ニテ大法院ノ官吏其職ニ堪ヘサルニ依リ議院ノ信任ヲ委ヌヘカラスト決議スルモ其趣ヲ奏聞シ國王ハ右受効ノ官吏ヲ黜クヘシ然リト雖モ國王ハ黜退セラレタル官吏ニ其半俸ヲ與ヘテ養老ノ資ト爲スヲ得ヘシ

第四百四款 議院ハ大法院ニ於テ判斷スル處ノ細目ヲ檢査スヘカラス又議院ノ委官ハ其大体ノ中第一等ノ小法院ノ專職トシテ公文ヲ以テ其旨ヲ告知シ速ニ議院ニ集會シテ立法及全國ノ權利ヲ維持セシムヘシ○議院ハ遅クモ攝政職或ハ内閣大臣ニ於テ禮拜堂ニテ其召

集ノ儀式ヲ執行スヘキ日限ヨリ三十日内ニ集會スヘシ

第四百五款 平常ノ集會ニハ議院ノ政体課ニテ内閣大臣ノ草按ヲ請求スルノ權アリ但各省ノ專務及軍機關係ノ草按ノ如キニ至テハ其事一般ノ知ル處ニシテ已ニ議院ノ專課ニ付シタル者ニ非レハ之ヲ請求スヘカラス

第四百七款 政体課ニ於テ内閣大臣總体或ハ其内ノ一員又數員國家人民ノ爲ニ可否ヲ獻替スルニ當テ王國ノ直利ヲ慮ラス或ハ其奏者公正忠勤ヲ盡シテ以テ其職ヲ奉セス負荷ノ重キニ堪ヘサルコトヲ看出スモ其趣ヲ議院ニ通達スルノ權アリ議院ハ此通知ヲ得タル上ニテ國家人民ノ爲ニ緊要ト考フルモ其趣ヲ文書ニ認メ之ヲ國王ニ効奏シテ其官員ノ地位ヲ削キ内閣大臣ノ名ヲ削ル事ヲ請求スヘシ

○右様ノ案件ハ議院ノ兩局中何レニテモ之ヲ發言シ政体課ノ外タ
 リト雖_レ之ヲ議院ニ發言シ得ヘシ然_レ一應政体課ニ於テ之ヲ檢査
 シタル上ニ非_レハ議院ト雖_レ之ヲ決定スル_レ能ハス○議院ニ於テ
 右様ノ按件ヲ議論スル_レニ國民ノ權利ニ屬スル_レニ至テハ國王ノ
 趣意ナリト雖_レ之ヲ撼動スル_レ得ス況ヤ議院ノ檢査ニ於テヲヤ○
 効奏ヲ受ケタル者其職ヲ剝カレタル上ハ既ニ議院ノ檢査ヲ經テ按
 件落着セルト看做スヘシ故ニ其次ノ集會ニ於テ新ニ之ヲ檢査シ其
 責ヲ求ムル_レアルヘカラス○王國收入ノ處置ニ就テハ議院ノ分課
 又ハ委官ニ於テ之ヲ檢査シタル後ト雖_レ右專務ノ官吏ハ其職掌ヲ
 以テ臨時ニ之ヲ改正スル_レアルヘシ

第百八款 平常ノ集會ニ於テ議院ハ撰舉律ノ條例ニ基キテ三年毎ニ

才學有名ノ人物六員ヲ撰_レテ開版著述ノ自由ヲ監督セシム此六員
 ハ議院ノ檢事ヲ以テ其長ト爲シ之ト俱ニ其事ヲ擔任スヘシ其中二
 員ハ檢事ノ外必ス法律學者ニシテ左ノ權ヲ有スヘシ若シ著述者或
 ハ出版主其書籍ヲ開版スル前ニ文書ヲ以テ其著述ノ趣意ヲ述ヘ右
 ハ出版律ニ於テ糾彈ヲ受クヘキヤ否ヲ窺ヒ其差圖ヲ仰ク_レアル_レ
 ハ檢事并ニ三員ノ監督内一員ハ必ス法律家タルヲ要ス之ヲ檢査シ其可否ヲ指令ス
 ヘシ○既ニ出版シテ妨ケナキ旨ノ免許ヲ得タル上ハ出版主ハ自由
 ニ之ヲ開版シテ敢テ其責ニ任スル_レナク以後ハ都テ監吏ノ擔當ス
 ル所ト爲ル

第百九款 平常ノ集會ハ議院自己ノ請求ヲ除クノ外開院後滿四箇月
 ニ至ラサレハ散會スル_レ得ス但撰舉律ニ掲ルカ如ク國王新ニ議員

ノ撰擧ヲ命シテ其一局又ハ二局ノ舊員ト交代セシムルハ例外ナ
リ○右様ノ時ニ於テ議員ハ平常ノ集會タル体裁ヲ存センカ爲ニ散
會後三箇月間ニ國王ノ定メタル日限ニ集會スヘシ開院後四箇月ヲ
經サレハ國王之ヲ解散スルヲ得ス○臨時ノ集會ハ國王ノ便宜ニ
從テ解散ス但其日限ハ平常ノ集會ヨリ短キヲ要ス

第一百十款 議院ノ議員ニ列スル者ハ局中出頭ノ人數六分ノ五同意シ
議院ノ決議ニ依リテ糾彈ヲ許スニ非レハ議員ノ言語行爲ニ就キテ
劾彈ヲ受ケ又自由ノ權利ヲ奪ハル、ヲナカルヘシ○既ニ議員タル
上ハ議院集會ノ地ヨリ放逐セラル、ヲナカルヘシ○士民武弁ノ論
ナク或ハ一人或ハ一隊或ハ士民集合シテ社名ヲ立テ一己ノ意見ニ
揮依リ或ハ他ノ指ニ從ヲ以テ議院各局各課又議員中ノ其名ニ粗暴

ノ舉動ヲ爲シ或ハ之ヲ以テ議院ノ議論決斷ヲ妨ケ其自由ヲ制セン
ト欲スル者ハ總テ之ヲ叛逆ノ律ニ處シ議院ノ定律ヲ援キテ糾彈ス
ヘシ○議院ノ集會間ニ議員タル者其地ニ往還スル途中公用ノ旅行
タルヲ顯然タルニ無禮ノ詞或ハ暴動ヲ受クルハ即チ王室ノ官吏
其職務ヲ奉行スルニ付暴動ヲ蒙リ或ハ無禮ヲ爲セシ定律ヲ以テ右
罪人ヲ罰スヘシ○議院ノ委官監司檢事局課ノ史錄等其職ヲ奉スル
間ニ暴動ヲ加ヘ或ハ無禮ヲ爲ス者モ同罪ヲ以テ罰セラルヘシ

第百十一款 議員輕カラサル罪科ヲ犯スハ篤ト其事ヲ檢査シタル
上判事ノ命令ニ限テ之ヲ召捕スヘシト雖モ其罪科明白ニシテ一時
モ猶豫ノ暇アラサレハ之ヲ施スヘカラス但司法院ノ召狀ヲ得テモ
本人出頭セサルハ乃チ現今行フ所ノ條例ヲ以テ處置スヘシ○議

員タル者ハ本文ノ按件ニ於テノミ其自由ノ權ヲ失フヘシ○議院ノ
委官并ニ監司其職務ヲ奉行スルニ就テハ唯議院ノミノ命令ヲ守ル
ヘシ此命令ハ兼テ與ヘタル教示ノ趣意ト齟齬セサルヲ要ス○右官
吏ハ議院ノ決斷ニ基テ之ヲ奉行スルカ故ニ其責ニ任スルコナシ
第百十三款 議院中ニテ課稅條例ヲ施行スル命ヲ奉スル者ハ其取立
方ニ付決シテ其責ニ任スルコナカルヘシ

○西班牙

第十三條 國會ハ同權ヲ有スル二ノ立法院ヲ以テ成ル即チ元老院及
代議士院ナリ
第二十六條 國會ハ每歲集會ス其之ヲ召集シ延期シ及會期ヲ中止シ

或ハ代議士院ヲ解散スル等ノ權ハ國王ニ屬ス增補律例第六條參看

第二十七條 國會ハ王祚缺位ノキ又事由アリテ國王政ヲ親ラスルコ
能ハサルキハ必ス之ヲ召集スヘシ

第二十八條 立法院ハ總テ犯律ヲ正スル爲ニ其内制ヲ決定シ及議員
ノ分限ヲ監查ス又代議士院ハ代議士撰擧ノ當否ヲ判決ス

第三十二條 立法院ノ一ヲ集會セシムルキハ必ス其他ノ二院ヲ集會
セシム但元老院裁判權ヲ行フキハ此限ニ非ス

第三十三條 立法院ハ兩院共ニ會スルモ又別ニ會スルモ國王ノ前ニ
於テ論議スルコトヲ得ス

第三十四條 元老院及代議士院ノ會議ハ公行トス亦特異ノ時機ニ際
シテハ祕密會議ヲ開クコトヲ得ヘシ

第三十七條 凡決ヲ舉ルハ兩院皆公評ノ過半數ヲ以テス法律ヲ公評スルニハ各院其全議員ノ半數ヨリ多キ出席アルヲ要ス

第三十八條 立法兩院ノ一ニ於テ斥ケラレ又國王ノ可ト爲サイル法律議按ハ其議員任期中再ヒ之ヲ進ムルヲ得ス增補律例第七條參看

第三十九條 國會ハ國王ト共ニ受用スル立法權ノ外左ニ掲クル職掌ヲ有ス

第一 國王太子王國レシアン区攝政〇一員ニ限ラス若クハレシアンレ攝政一員

第二 國憲ニ掲ケタル時機ニ於テ王國ノ攝政若クハ攝政官ヲ撰舉シ及未成年ナル國王ノヲユテウレル保ヲ命スル事

第三 代議士院ヨリ論告セラレテ元老院ノ裁判ヲ受ケタル執政ノ

責罰ヲ實行スル事

第四十條 元老議官及代議士ハ其職ヲ執行スル爲メ發シタル論說公評ノ故ヲ以テ之ヲ侵ストヲ得ス

第四十一條 元老議官ハ其現行犯罪ニ由テ拘捕セララル、キ又元老院ノ集會セサルキノ外豫メ元老院ノ決定ヲ經スシテ之ヲ糾治シ又囚捕スルトヲ得ス然レ何レノ場合ヲ論セス至急ニ議官ヲ糾治シ若クハ囚捕スルキハ之ヲ元老院ニ報知シ以テ該院權限ノ處分ヲ爲サシム代議士モ亦其現行犯罪ニ因リ拘捕スルノ外代議士院ノ許認ナケレハ會期間ニ之ヲ糾治シ又囚捕スルヲ得ス然レ現行犯罪ニ因リ囚捕シ及會期ヲ閉ツルノ後糾治又囚捕スルニ於テモ至急ニ之ヲ代議士院ニ報知シ該院ヲシテ該件ヲ查照シテ之ヲ處分セシムヘシ增補律例

第八條
參看

第六十四條

執政ハ元老議官若クハ代議士ニ兼任シ仍ホ立法兩院元老

議院代議士院ノ論議ニ參スルコトヲ得然レ公評ハ其任ヲ受ケタル立法院ニ

ニ於テスルニ非レハ之ヲ行フコトヲ得ス

增補第六條

國會ハ每歲現ニ代議士院ヲ編成シタル日ヨリ後少クモ

四箇月間之ヲ集會スヘシ

第八條

代議士院ノ前許ナレハ國憲第四十一條ニ豫定スル代議士ヲ

審判スルコトヲ得ス

第十六條

國會ハ會計法ヲ議スルノ前ニ國憲第七十九條ニ關スル法

律ヲ議スヘシ

○瑞士

第六十條

聯邦ノ最上權ハ聯邦議會ニ由テ之ヲ行フ該聯邦議會ハ

國議會邦議會ノ二局ニ成ル

第七十三條

國議會及列邦議會ハ總テ此國憲ニ因リ聯邦ノ所轄ニ屬

シテ他ノ聯邦政官ニ屬セサル所ノ一切ノ事件ヲ論議ス

第七十四條

國議會及列邦議會ニ委任セラレタル事務ハ大約左ノ如

シ

第一 聯邦ノ憲法ヲ執行スル爲ノ法律命令若クハ決定就中撰擧區

ノ設立撰擧ノ方法聯邦政官ノ構成并ニ其勤務ノ方法及陪審ノ設

置

第二

聯邦政官及シアンセルリ、ヘデラル聯邦書記局、官員ノ俸給并ニ

償給常設スル聯邦官職ノ新設及其俸給ヲ定ムル事

第三 聯邦行政會聯邦裁判官シヤンスリ書記官 大將參謀長聯邦使節ノ撰舉

第四 外國及外國政府ヲ承認スル事

第五 外國トノ同盟并ニ條約及列邦相互ノ條約若クハ列邦ト外國トノ間ニ取結タル條約ノ認可然レ列邦相互ノ條約ハ聯邦行政會若クハ他ノ列邦ヨリ要求スル場合ノ外聯邦議會ニ具上セス

第六 外國ニ對シ安寧ヲ保チ瑞士國ノ獨立并ニ中立ヲ守ルヘキ方法及宣戰講和

第七 瑞士列邦ノ憲法及邦土ノ保護ト之レヲ保護スル爲ニ列邦ノ事務ニ關與シ瑞士内國ノ平和ヲ保ノ方法及アルムニスチ大并ニ

列ラ一區特ノ執行

第八 聯邦憲法ヲ尊重セシメ列邦憲法ノ保護ヲ固スル爲ノ方法及聯邦ノ職分ヲ盡スヲ得ルノ方法又聯邦ニ由リ保固スル權利ヲ保守スルヲ目的トスル方法

第九 聯邦ノ兵制兵隊ノ教練及列邦ノ租稅ニ關スル法則兵隊ノ規則

第十 聯邦賦役表ノ規定聯邦軍備金ノ管理及消費ニ關スル法則○列邦ヨリ納ル、銀稅ノ收歛負債歲計豫算表及決算表

第十一 通運稅驛遞貨幣度量衡火藥ノ製造鬻賣礦坑軍備糧食兵器等

關スル法律命令若クハ決定

第十二 公舍貧病院ノ新設聯邦ノ建築及之ニ關スル土地沒收ノ方

法

第十三 住居自由ノ權 聯邦内何レノ地方ニ於テモ其居所ヲ定ムルコトヲ得ルノ權 無籍人外國人ノ警察及健康方法ニ關スル法則

第十四 聯邦行政及聯邦司法ノ監督

第十五 聯邦行政會ニ於テ行フタル決定若クハ方法ニ對スル列邦及國民ノ要求

第十六 公權ニ關セル列邦相互ノ爭論

第十七 權限抵觸ノ爭論就中左ノ二件ニ關スル者

甲 某件ハ聯邦ノ所管ニ屬スルヤ將タ其列邦ノ主權ニ屬スルヤノ難問

乙 某件ハ聯邦行政會ノ委任ナルヤ將タ其聯邦裁判所ノ委任ナ

ルヤノ難問

第十八 聯邦憲法ノ查正

第七十五條 國議會及列邦議會ハ每歲一回通常會期ニ於テ條例ニ定タル日ヲ以テ集會ス○國議會ノ議員四分ノ一若クハ五邦ノ請求ニ由リ聯邦行政會ヨリ臨時ニ右兩議會ヲ召集ス

第七十六條 議會ハ出席スル代議士ノ數其全員ノ眞過半數ニ至ルニ非レハ決ヲ舉ルコトヲ得ス

第七十七條 國議會及列邦議會ニ於テ決ヲ舉ルハ公評人ノ眞過半數ヲ以テス

第七十八條 聯邦ノ法律命令若クハ決定ハ兩議會ノ承認ヲ得ルニ非スシテ決行スルコトヲ得ス

第七十九條 兩議會ノ議員ハ訓諭ヲ受スシテ公評ス

第八十條 兩議會ハ各別ニ決ヲ擧ク然レ第七十四條第三項ニ開裁ス
ル撰擧及特赦ノ權ヲ行ヒ又權限抵觸ノ争ヲ判決スルキハ兩議會一
所ニ會合シ國議會議長ノ指揮ヲ奉シテ以テ論議シ兩議會公評人ノ
過半数ニ由テ決ヲ擧ク

第八十一條 起草ノ權ハ各議會及兩議會ノ各議員ニ屬ス○列邦ハ信
書往復ニ由テ起草ノ權ヲ行フコトヲ得列邦各法律草案按テ聯邦
議會ニ郵送スルコトヲ得

第八十二條 各議會ノ會議ハ常ニ公行トス

○葡萄牙

第十四條 國會ハ貴族院及代議士院ヲ以テ構成ス

第十五條 國會ノ職掌ヲ左ニ掲ク

第一 國王ヲフランス、ロアニア儲君ル一員ニ攝政○限ル若クハ攝政官一員ニ
ノ宣誓ヲ受クル事

第二 攝政若クハコンセイユド、レシアン區議政ノ僚員ヲ撰ミ及其
權域ヲ定ムル千八百五十二年七月五日ノ增補律例第一條ニ云
ニ於テ國王ノ攝政官ヲ撰舉シ及攝政官ノ權域ヲ指定スルハ國會
ノ職掌ナリ○何レノ場合ニ於テモ此條款ニ據リ千八百四十六年
四月七日ノ法律ニ定タル規則ヲ變易シ又ハ建國法第九十二條
ノ施行ヲ回避スルコトヲ得ス第一○建國法第十五第二項ヲ改竄ス
ルコトス
如シ項ニ

第三 儲君降誕ノ後始テ開キタル會合ニ於テ之ヲ世嗣ト認ムル事

第四 遺命ニ因テ指定シタル者ナキ時未成年ナル國王ノ太保ヲ任

命スル事

第五 國王殂スル時若クハ王位ヲ空フスル時既往ノ施政ヲ查檢シ
及施政上ノ弊害ヲ改正スル事

第六 法律ヲ定立説明停閣廢棄スル事

第七 建國法ノ保守及本國ノ公益ヲ看守スル事

第八 毎歲國費ヲ定メ及直稅ヲ配當スル事

第九 王國若クハ港内ニ外國海陸軍ノ進入ヲ允否スル事

第十 毎歲政府ノ起議ニ因リ平時若クハ臨時ノ海陸軍ヲ限定スル
事

事

第十一 負債ヲ約スルコトヲ政府ニ許認スル事

第十二 國債ヲ還償スルニ適宜ナル方法ヲ定ル事

第十三 政府ノ財産ノ管理ヲ規定シ及該財産ノ賣付ヲ判決スル

事

第十四 政府官僚及其奉給ヲ設定シ若クハ廢止スル事

第十五 貨幣ノ斤量價格銘誌模畫名稱及度量衡ノ原位尺度斤量ノ
者例ヘハ佛國ニ於テ「メートル」ヲ尺度ノ原位ト「グラム」ヲ重量ノ
定メリトルヲ斤量ノ原位ト定ルノ類是ナリヲ定ル事

第十六條 貴族院ノ議員ハ「端正ナル王國貴臣」ノ名稱ヲ有シ代議士院

ノ議員ハ「貴重ナル葡萄牙王國代議士員」ノ名稱ヲ有ス

第十七條 立法官ノ任期ハ四年トス而シテ毎歲ノ各會期ハ三月ト定

ム

第二十條 前條ノ儀禮議院開閉ノ儀并ニ國王ノ報照通告文按ヲ作リ國王ヨ
リ其意見ヲ議院ニ報告

ヲ云ノ爲ニハ議院内務條例ニ掲クル所ノ規例ヲ踐行スヘシ

第二十一條 貴族院議長及副議長ノ任命ハ國王ニ屬ス代議士院ハ議

長及副議長ハ同院ヨリ奏呈シタル推薦人五員ノ姓名表ニ依リ國王
之ヲ撰定スヘシ○兩院書記官ノ撰命議員權任ノ監查及宣誓並ニ議
堂ノ取締ハ各院其特別ナル條例ニ依據シテ施行スヘシ

第二十二條 兩院集合スルキハ議長職ヲ貴族院ノ議長ニ委スヘシ但

兩院ノ議員ハ國會ノ開會ニ準シテ其坐位ヲ占ムヘシ貴族院ノ議員
ハ右ニ列シ代
議士院ノ議員
ハ左ニ列ス

第二十三條 上下各院貴族院ト
代議士院トノ會議ハ國益ノタメ祕密會議ヲ開ク

トヲ要スヘキ場合ヲ除クノ外公行トス

第二十四條 議決ヲ舉ハ出頭シタル議員ノ過半數ヲ以テスヘシ

第二十五條 上下各院ノ議員ハ其職務ヲ以テ發シタル論說ノ爲ニ之
ヲ審糾スルトヲ得ス

第二十六條 凡貴族院若クハ代議士院ノ議員ハ其現行重罪犯ノ場合
ヲ除クノ外何レノ官廳ト雖モ本人附屬スル議院ノ許認ナクシテ職
事履行ノ際ニ勾捕スルトヲ得ス

第二十七條 凡貴族院若クハ代議士院ノ議員ヲ刑事法院ニ提起スル
ハ裁判官ハ全ク其審糾ヲ閣止シ本人附屬スル議院ニ之ヲ報知スヘ
シ是時議院ハ提起セラレタル議員ノ審糾ニ着手スヘキヤト該議員
ヲ停職スヘキヤ或ハ停職ヲ要セサルヤトヲ決定スヘシ

第二十八條 兩院ノ議員ハ共ニ執政官若クハ參議官ニ拜スルトヲ得
ヘシ是時貴族院ノ議員ハ該院ノ會議ニ出頭スルト故トノ如シ謂フ
ハ議
員ノ職ヲ
失ハス然モ代議士院ノ議員ハ其職ヲ去リ改メテ撰舉ヲ受クヘシ
但其議員ニ重撰セラレタルキハ兩職執政官若クハ參議官ノ職ト
代議士院ノ議員ノ職トヲ云ニ

兼任スヘシ増補律例第二條ニ云クハ政府ニ附屬シテ賜俸アル官職或ハ理事職ニ拜スルニ由テ代議士ノ官ヲ失フ該代議士ヲ重撰スルニハ増補律例第九條ニ定ムル所ニ循ヒ政府官僚ノ職ニ服スルニ代議士員ニ撰舉セラルヘキ權ヲ規定スヘキ條則ニ依準ス建國法第二十八條ノ條則ヲ固定擴充スルヲ斯ノ如シ

第二十九條 代議士院ノ議員ニ撰マレタルハ既ニ執政官若クハ參議官ニ拜スル者ハ亦兩職解前條ニ見タリニ兼任スヘシ

第三十條 何人ニテモ同時ニ兩院ノ議員ニ兼任スルコトヲ得

第三十一條 參議官及執政官ヲ除クノ外何レノ官職ニテモ貴族院若クハ代議士院ノ議員ニ任スルノ間假リニ舊職ヲ執ルヲ止ム

第四十五條 法律議按ノ起議及許否ハ上下各院ニ屬ス

第五十五條 上下各院論議ヲ竭スノ後他ノ議員ヨリ之ニ送移スル議

按ヲ全ク嘉納スルニ及テハ該按ヲ定按國王之ヲ制可スルノ後ト名

ク之ヲ會議ノ席ニ於テ展讀スルノ後議長及書記官ニ各ノ手署シタル副本二冊ヲ國王ニ奏呈シ左ノ式文ニ由リ其制可ヲ仰ク

「國會ハ王國ニ裨益アリト自信スル別冊定按ヲ國王ニ奏上ス願クハ陛下ノ之ヲ制可センコトヲ」

第五十六條 定按ノ奏上ハ最終ニ議決シタル議院ヨリ七名ノ委員ヲ送遣シ之ヲ行フ該議院ハ定按ヲ奏上スルト同時ニ該定按ヲ起草シタル議院ニ向ヒ某件ノ起議ハ本院嘉納スルノ後其制可ヲ得ンカ爲ニ之ヲ國王ニ奏呈スル旨ヲ通知ス

○荷蘭

第七十四條 國會ハ荷蘭國民ヲ代理ス

第七十五條 國會ハ上院下院ヲ以テ成ル

第八十八條 上下兩院ノ議員ニ兼任スルヲ得ス

第八十九條 各省長官ハ兩院ノ議ニ參加ス然レ兼テ上院又下院ノ議員タルキヲ除クノ外ハ獨リ評議ノ權ヲ有スルノミ○各省長官ハ議院ノ求メニ應シ之ヲ通照スルニ王國又歐州外ニ於ケル藩屬地ノ利益安寧ニ戾ラスト思量スヘキ按據ヲ言詞若クハ書文ニ因テ該議院ニ報知ス○是カ爲ニ各院ヨリ各省長官ヲ招テ其會議ニ出席セシムルヲ得

第九十條 下院ハ法律ヲ以テ定ムヘキ探討ノ權ヲ有ス

第九十一條 國會ノ議員ハ大法院ノ僚員若クハ大檢事統計院ノ僚員オウケイニシテ州ニ差遣スル國王ノ理事官及僧侶ノ職ニ兼任スルヲ得ス○當務

ノ武官ニシテ上院若クハ下院ノ議員ニ任スル者ハ其奉職ノ間非役官トナス既ニ議員ノ列ヲ去レハ更ニ軍務ニ復ス○撰學會ニ上席スル官吏ハ其上席シタル區ニ於テ議員ニ撰舉セラルヘカラス○官俸ヲ受クル職務ヲ奉シ又官吏ニ登用ヲ得タル國會ノ議員ハ議員タルヲ罷ム然レ即時ニ之ニ重選サル、ヲ得

第九十二條 兩院ノ議員ハ會議ニ於テ發言スル所ノ論議ノタメニ司法上ノ手續ヲ以テ糾治スルヲ得ス

第九十三條 上下各院ハ新ニ撰派セル議員ノ權任ヲ監査シ及議員ノ權任若クハ其撰舉ニ關シ起リタル爭訟ヲ裁審ス

第九十四條 各院ハ其員外ノ者ヲ採リテ書記官ニ任命ス

第九十五條 國會ハ少クモ毎歲一回會議ヲ開ク○通常會期ハ第九月

第三ノ月曜日ニ開ク○國王ハ自ラ須要ト思量スルハ兩院ヲ召集シテ臨時會議ヲ開ク

第九十六條 凡兩院ノ會議ハ其兩院ノ議員合議スルト否ヤヲ問ハス公行トス○兩院ハ其議員十分ノ一之ヲ求メ又議長之ヲ須要トスルハ秘密會議ヲ爲ス○議會ハ秘密會議ニ於テ論議スベキヤ否ヤヲ決ス○秘密會議ニ於テ論シタル議事ハ亦秘密會議ニ於テ決定スルヲ得

第九十七條 國王歿シ又其位ヲ辭スルニ當リ會々國會ノ開會セサルハ預メ召集ノ命ナク正直ニ親ラ集會ス此臨時會期ハ國王歿シ若クハ辭位ノ後第十五日ニ開ク兩院ノ集會解散シタルハ新撰舉ヲ終リタル日ヨリ其期ヲ數フ

第九十八條 國會ノ會期ハ兩院集合ノ會議ニ於テ國王若クハ王ノ代理官之ヲ開ク國王國益ノタメ會期ヲ繼續スルヲ要セスト思料スルハ閉會スルモ亦同一ノ方法ヲ以テス○國王第七十條ニ掲クル權利ヲ使用スルニ非ル外通常會期ハ少ク正二十日間ニ及フ

第百條 兩院ハ議員ノ半數以上出會スルノ外各別ニ又合同シテ論議決定スルヲ得ス

第百一條 凡決ヲ舉ルハ投票ノ過半數ヲ以テス○論議兩立スルハ決定ヲ後會ニ附ス○該會又總議員出席ノ議會ニ於テ論議猶兩立スルハ其起議ヲ斥ク

第百二條 公評ハ名ヲ呼ヒ高聲ヲ舉テ之ヲ行フ獨リ應撰人ノ撰舉及推薦ハ暗票ヲ以テス

スクリプトニテ

第三百三條 兩院集合ノ會議ニ於テハ兩院ヲ以テ一箇ノ議會ト見做ス
且議員ハ坐位ヲ占ムルニ上下院ノ別ヲ存セス○上院ノ議長ハ兩院
集合ノ首長ニ任ス

第三百十三條 法律議按ヲ除クノ外兩院ハ各別ニ其他ノ諸起議ヲ國王
ニ奏上スルヲ得

○丁抹

第二十九條 兩院ハ下院及上院ヨリ成ル
ソシスギン フタルケチン ヲンツゼン

第四十一條 國王ヨリ特ニ兩院ヲ徵集スルニ非レハ兩院ハ十月第一
月曜日ニ於テ集會ス
ソシスギン

第四十二條 兩院ハ政府所在ノ地ニ於テ集會ス然レ格別ナル時機ニ

於テハ國王其他ノ所ニ於テ徵集スルヲ得ヘシ

第四十三條 兩院ハ侵スヘカラサル者トス兩院ノ安全及其自由ヲ害
シ及其教令ヲ爲シ又其教令ニ從フ者ハ逆罪タリ

第四十四條 各議院ハ新ニ法律ヲ起草シ及其議院ニ關スル事件ヲ決
定スルノ權ヲ有ス

第四十五條 各議院ハ國王ニ向テ建言スルノ權アリ

第四十六條 各議院ハ公益ニ關スル事件ヲ調査セシムル爲ニ議員ノ
中ヨリ委員ヲ設クルヲ得此委員ハ調査ノ爲ニ必要ナル報告書等
ヲ差出スヘキヲ口述或ハ書面ヲ以テ官吏及人民ニ求ムルノ權ア
リ

第四十八條 兩院ノ通常ノ集會ニ於テハ其集會ノ整頓スル否國ノ入

額及出額ニ付テノ計算書ト翌年ノ國計豫算表トヲ製シテ之ヲ出ス
ヘシ○國計豫算表及政府ノ格別ナル費額ハ始メ必ス下院ニ於テ決
定ス
クレタスラレ
コンシャム

第五十條 各議院ハ國計ニ關シタル統計書ヲ調査シ又國ノ入額及出
額ハ其統計書ニ記載シ豫算表ノ外費額ノ有ルヤ否ヲ検査スル爲メ
ニ俸給アル兩名ノ検査官ヲ命スヘシ此検査官ハ種々ノ報告書及必
要ト思考スル證書類ヲ差出サシムルノ權アリ○政府ノ一年間ノ統
計書ハ検査官ノ取調書ヲ副ヘ兩院ノ決定ニ付ス○右種々ノ規定ハ
一ノ法律ニ由テ變更スルコトヲ得ヘシ

第五十二條 上院下院ニ論ナク三回ノ會議ヲ經ルニ非レハ法律ノ議
按ヲ決定スルコトヲ得ス

第五十三條 一ノ議院ニ於テ決定シタル法律ノ議按ヲ其儘ニ之ヲ他
議院ニ送付シ變更シタルキハ之ヲ原ノ議院ニ送還スヘシ原ノ議院
ニ於テ又之ヲ變更シタルキハ更ニ又他ノ議院ニ送還スヘシ而シテ
遂ニ兩院ノ議決ヲ得ルコト能ハサルキハ兩院ノ一院ノ求ニ因リ各議
院ニ於テ同數ノ委員ヲ命スヘシ此委員ハ會議中ノ事件ニ付キ一ノ
陳述書ヲ作り意見ヲ兩院ニ進呈ス兩院ハ其意見ニ由リ各自ニ之カ
決定ヲナスヘシ

第五十四條 各議院ハ該議員ノ撰擧ノ正確ナルヤ否ヲ審糾スルノ權
ヲ有ス

第五十五條 新撰議員ハ撰擧ノ正確ヲ認可セラル、ヤ直ニ國憲ヲ循
守スヘキ誓詞ヲ宣フ

第五十六條 兩院ノ議員ハ撰舉人ノ教令ニ從ハスシテ自己ノ意見ヲ述ルヲ要ス○兩院ノ議員及撰舉セラレタル官員等ハ撰舉人ノ委任ヲ受クル爲ニ政府ノ認准ヲ得ルニ及ハス

第五十七條 兩院一集會中議院ノ承認ヲ得スシテ要償ノ爲ニ議員ヲ禁獄スルコトヲ得ス又現行罪犯ヲ除クノ外之ヲ禁獄シ及裁判所ヘ提喚スルコトヲ得ス○兩院ノ議員ハ議院ノ外ニ在ラス又議院ノ許可ナクシテ院中ニ於テ發言シタル意見ノ爲ニ之ヲ審糾スルコトヲ得ス

第五十八條 法律ニ由テ撰舉ニ當リタル議員其撰舉ノ取消トナリタル場合ニ於テハ該議員ハ撰舉ヨリ生スル一切ノ權利ヲ失フ○俸給アル官職ヲ命セラレタル兩院議員ノ更ニ撰舉ニ當ルヘキ場合ハ一ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 宰相ハ其職務ニ付キ兩院ニ出席ヲナシ及議院ノ會議間ニ於テ辨論スルノ權ヲ有ス然レ宰相ハ其辨論ノ間議院ノ例則ニ循フヲ要ス然レ宰相ハ兼テ兩院ノ一院ノ議員タルニ非レハ可否ヲ公評スルノ權ヲ有セス

第六十條 各議院ハ議長ヲ撰舉シ及議長ノ闕席シタルト代理者一名或ハ數名ヲ撰舉スルノ權アリ

第六十一條 各議院ニ於テ議員ノ半闕席シ及可否ノ公評ニ與カラサルトハ兩院ノ一院ハ決定ヲナスコトヲ得ス

第六十二條 兩院ノ議員ハ本院ノ承認ヲ得テ公事ヲ會議ニ委託シ及其旨趣ニ付キ宰相ノ辨明ヲ求ムルコトヲ得

第六十三條 議員ニ由ルニ非スシテ艸按ヲ兩院ノ一院ニ托スルコトヲ

得ス

第六十四條 兩院ノ一院ニ於テ或ル決定ニ付キ意見ヲ發言スルコトヲ不都合ト思考スルハ其儘之ヲ宰相ニ送還スルコトヲ得ヘシ

第六十五條 兩院ノ集會ハ公行トス然レ議長及規則ニ定タル所ノ議員ハ議員ニ非サル者ヲ院中ヨリ退去セシメンコトヲ請求スルノ權アリ而シテ議院ニ於テ其集會ヲ公行スヘキカ將タ祕密ニスヘキカヲ決定ス

第六十六條 各議院ニ於テハ事務ノ順序及取締ニ付テノ規則ヲ設クルヲ要ス

第六十七條 聯合國會ハ下院及上院ノ集會ヲ以テ成ル議員ノ半數闕席ヲナシ或ハ公評ニ與カラサルハリグスダグレユヒニ於テ規程

ヲ設クルノ權ヲ有ス

○伊太利

第四十八條 各院ノ集會ハ同時トス○一ノ議院ノ集會セサルハ他ノ議院ノミ集會スルハ法律ニ循由セサル者ニシテ其効ヲ有セス

第四十九條 兩院ノ議員ハ未タ其職務ヲ行ハサル前ニ國王ニ忠節ヲ盡シ國憲及法律ヲ確守シ國王ト國トノ合同利益ヲ圖リ職務ヲ行フヘキ誓ヲ宣フ

第五十條 各院ノ職務ニ於テハ報償ヲ受クヘキ理由ナシ

第五十一條 各院ノ議員ハ會議ニ於テ發言シタル意見及可否ノ投言ヲナシタル爲ニ告訴セラル、コナシ

第五十二條 各院ノ集會ハ公行トス○然レ議員十人ノ求ニ由リ密會ヲ行フコトヲ得ヘシ

第五十三條 各院ノ議員過半衆列席セサルキハ集會及會議ハ其効ヲ有セス

第五十四條 各院ハ過半数ヲ以テ可否ヲ決定ス

第五十五條 法按ノ發議ハ先ツ各院ノ委員ニ於テ調査スヘシ而シテ一議院ノ已ニ承諾シタル者ハ他ノ議院ニ送致ス又他ノ議院ノ承諾シタル後ハ國王ニ呈シテ其許可ヲ受クヘシ○各院ニ於テノ討議ハ各條之ヲ爲スヘシ

第五十七條 成年ノ國民ハ議院ニ向テ願書ヲ進呈スルノ權アリ議院ハ委員ニ托シテ願書ヲ調査セシメ而シテ委員ノ陳呈ニ由テ願書ヲ

受クヘキコトニ決定スルキハ其受クル所ノ願書ヲ主任ノ執政或ハ警察要ナル事件ヲ調査スル爲ニ設ケタル寮司ニ送付スルノ權アリ

第五十八條 各民親ラ議院ニ向テ願書ヲ進呈スルコトヲ禁ス○管廳及會社ノミ廳名及社名ヲ以テ願書ヲ進呈スルノ權アリ

第五十九條 各院ハテビュタシヨ_{乞願ノコトニ付キ出ス}ニ面接スルコトヲ禁ス各院ノ議員及諸執政又政府ノ委任ヲ受ケタル者ノ外亦之ヲ禁ス

第六十條 各院ハ其議員カ確實ナル議院參入ノ權力ヲ有スルヤ否ヲ審理ス

第六十一條 各院ハ自ラ設ケタル條規ニ由テ其職務ヲ行フニ付テノ法式ヲ定ム

第六十二條 伊太利語ヲ以テ兩院職務上ノ言辭トス○然レ佛蘭西語ヲ用ユル所ノ州ヨリ派出シタル議員ハ其語ヲ用ユルコトヲ得ヘシ

第六十三條 各院ニ於テ可否ヲ表スル爲ニ或ハ起坐ヲ以テシ或ハ議員ヲ左右ニ分チ或ハ暗票（スリウテシ、セクレ）ヲ以テス法按ノ總議及人身ニ關スル可否亦必ス暗票ヲ用ユ

第六十四條 凡議員ハ兩院ノ議員ヲ兼任スルコトヲ得ス

第六十六條 諸執政ハ議員タルキニ非レハ兩院ニ於テ列席スルコトヲ得ス然レモ常ニ議院ニ參入スルノ權アリ又議院ニ向テ要求スルコトアルキハ議院ハ必ス之ヲ聽クヘシ

第十一 行政權

○佛蘭西一千七百九十一年

第十七條 政治ハ立君政治ナリ○行政權ハ國王ニ委托セシモノニシテ諸卿及責ヲ任スル他ノ役人ハ國王ノ支配ヲ受ケ第二章ニ定リタル法式ヲ以テ其權ヲ行フヘシ

第九十七條 孰レノ人モ國民ノ誓ヲ立ス或ハ既ニ之ヲ立シコトヲ証明セサルキハ諸省ノ局ニ於テ或ハ國ノ租稅ト歲入ヲ司トル支配ノ局ニ於テモ孰レノ職ヲ勤ムヘカラス又行法官ヨリ委任スヘキ孰レノ事務ヲモ勤ムヘカラス

第九十八條 國王ノ孰レノ命令書ニモ國王ノ印ヲ調シ又卿或ハ州知事ノ加印アラサレハ之ヲ行フヘカラス

第九十九條 諸卿ハ國ノ安寧及政体及國民所有ノ權及自由ノ權ニ對シテ自ラ爲セシ都テノ罪ニ付テノ責メ及該省ノ雜費ニ供用スル爲ノ金高ノ濫用ニ付テノ責ニ任スヘシ

第百條 孰レノ場合ニ於テモ卿ハ國王ノ口令或ハ命令書ニ依テ已ノ任スヘキ責ヲ免ルヘカラス

第百二條 卿ハ在職中或ハ退職後ヲ論セス民選議院ノ布令ニヨラサレハ已ノ行政ノ處置ニ就テ重罪ノ訟ヲ受ヘカラス

第百七條 行政官ハ民選議院ノ請求又免許アラサレハ民選議院ヨリ三萬下ワー区「トワーメ」ハ一ノ内常備兵隊ヲ通行セシメ又屯留セシムヘカラス

第百四十一條 行政官ハ法律書ニ國印ヲ附シ且之ヲ班布セシムル

ヲ委托セラレ又國王ノ確定ヲ受ルニ及ハサル民選議院ノ決定ハ之ヲ班布セシメ且行ハシムルヲモ委托セラル、ナリ

第百四十二條 各法律ハ本書ニ通ヲ作り其二通ハ國王調印シ司法卿加印シ及國印ヲ附スヘシ其一通ハ國印局ノ古記載ニ收メ一通ハ民選議院ノ古記載ニ收ムヘシ

第百四十三條 班布ノ文武ハ左ノ如シ

我國王ノ名ヲ記ス 天主ノ恩惠及國ノ憲法ニ依リテ佛蘭西國民ノ王タリ現今及將來ノ人民ニ頓首ス今般民選議院之ヲ布告セシ故ニ我レ左ノ通リ決定シ且命令ス此ニ布告ノ文ヲ其儘書入ル 行政官及裁判官此文面ヲ其簿冊ニ記入セヨ其州及其管轄地ニ之ヲ布告シ且榜示セヨ又之ヲ國法トシテ行ハシメヨ其證據トシテ此書ニ我カ印ヲ調シ且國印ヲ附セシ